西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第52集

寺　崎　遺　跡

西都市立妻北小学校建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2008

宮崎県西都市教育委員会

寺崎遺跡周辺（日向国府跡）遠景（空撮、南より）

序

西都市教育委員会では、西都市立妻北小学校建設に伴う発掘調査を実施しました。本報告は、その発掘調査の報告であります。

調査の結果、竪穴住居跡２軒をはじめ溝状遺構２条・掘立柱建物跡２棟・土坑１基・柱穴群等を検出することができました。この中で特に、対象地の東側、南北に検出した溝状遺構は、日向国府に関連したもので、位置・方位・出土遺物等を考慮すると日向国府の東側に掘り込まれた区画溝ではないかと思われ、非常に注目されます。また、これら遺構に伴い、多量の土師器や須恵器・陶磁器・古瓦・古銭等が出土しました。

いずれにしても、これらは日向国府に関連した貴重な資料であり、大きな成果を得ることができました。

本報告が考古学の研究のみでなく、社会教育や学校教育の面にも広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と認識を深めるための資料となれば幸いと存じます。

なお、調査にあたってご指導・ご協力いただいた方々をはじめ、発掘調査・整理作業にたずさわっていただいた方々、並びに地元の方々に衷心から感謝申し上げます。

平成20年３月31日

西都市教育委員会

教育長　三　ケ　尻　　茂　樹

例　　言

1．本書は、西都市教育委員会が西都市立妻北小学校建設工事に伴い、平成17年度に実施した寺崎遺跡発掘調査の本報告である。
2．調査は、西都市大字右松に所在する寺崎遺跡を対象に行った。調査期間は平成17年９月29日から平成18年１月11日である。
3．発掘調査は、西都市教育委員会が主体となり実施した。
4．発掘調査及び図面作成等については蓑方が担当した。
5．本書の執筆・編集は蓑方が行った。
6．本書に使用した方位はFig.１は平面直角座標系第Ⅱ座標系であり、その他は磁北である。
7．本書に掲載した遺構・遺物写真は蓑方が撮影した。また、遺構の空中写真は㈱スカイサーベイ九州に委託して行った。
8．本書に使用した遺構記号は、SA（竪穴住居跡）・SC（土坑）・SE（溝状遺構）・SB（掘立柱建物跡）・SP（柱穴・ピット）である。

目　　次

第Ⅰ章　序　　説
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の体制 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境
　第１節　概　　要 …… 2
　第２節　本報告に関連する周辺の主な遺跡 …… 4
第Ⅲ章　現況と調査区の設定
　第１節　現況 …… 13
　第２節　調査区の設定 …… 13
　第３節　層序 …… 13
第Ⅳ章　調査の記録
　第１節　遺構と遺物 …… 14
　　１・縄文時代の遺構と遺物 …… 14
　　２．古代以降の遺構と遺物 …… 14
　　SA（竪穴住居跡） …… 14
　　SC（土坑） …… 19
　　SE（溝状遺構） …… 19
　　SB（掘立柱建物跡） …… 26
　　SP（柱穴） …… 27
第Ⅴ章　ま　と　め …… 33

報告書抄録

挿　図　目　次

Fig. 1　寺崎遺跡周辺位置図（1/25,000）…… 3

Fig. 2　寺崎遺跡遺構・遺物実測図（1/1,000・1/20・1/12）…… 5

Fig. 3　寺崎遺跡E地点遺構・出土遺物実測図（1/400・1/20・1/10）…… 6

Fig. 4　上妻遺跡Ⅰ地点遺構・出土遺物実測図（1/400・1/10）…… 7

Fig. 5　上妻遺跡A区出土遺物実測図（1/8）…… 7

Fig. 6　木簡実測図（1/4）…… 7

Fig. 7　調査区周辺遺構分布図（1/1,000）…… 9～10

Fig. 8　調査区遺構分布図（1/100）…… 11～12

Fig. 9　試掘調査第2トレンチ出土遺物実測図（1/3）…… 14

Fig. 10　SA 1 遺構実測図（1/40）…… 14

Fig. 11　SA 1 出土遺物実測図（1/40）…… 17

Fig. 12　SA 2 遺構・出土遺物実測図（1/40・1/3）…… 18

Fig. 13　SC 1 遺構・出土遺物実測図（1/10 0・1/3）…… 18

Fig. 14　SE 1（南側）遺構実測図（1/40）…… 20

Fig. 15　SE 1（北側）遺構実測図・土層図（1/40）…… 21

Fig. 16　SE 1 出土遺物実測図（1/3）…… 22

Fig. 17　SE 1 出土遺物実測図（1/3）…… 23

Fig. 18　SE 1 出土遺物実測図（1/3）…… 24

Fig. 19　SB 1・2 遺構実測図（1/100）…… 25

Fig. 20　SB・SP出土遺物実測図（1/3）…… 28

図　版　目　次

巻頭PL.　1　寺崎遺跡（日向国府跡）遠景（空撮・南より）

PL.　1　1．寺崎遺跡遠景（空撮・南より）　2．調査区全景（空撮・真上）

PL.　2　3．調査区南側遺構検出状況（空撮・真上より）　4．調査区南東部遺構検出状況（空撮・真上より）

PL.　3　5．調査区遺構掘削前状況（南側）①　6．調査区遺構掘削前状況（南側）②

7．SA 1 遺物検出状況①　8．SA 1 遺物検出状況②

9．SA 1 遺構検出状況①　10．SA 1 遺構検出状況②

11．SA 2 遺構検出状況①　12．SA 2 遺構検出状況②

PL.　4　13．SC 1 遺物出土状況　14．SC 1 遺構検出状況

15．SE 1 遺物出土状況（南側）　16．SE 1 遺構検出状況（南側）

17．SE 1 土層断面（南側）　18．SE 1 遺物検出状況（北側）

19．SE 1 内SP検出状況（北側）　20．SE 1 土層断面（北側）

PL.　5　21．SE 1 遺構検出状況（北側）　22．SE 2 ・SB 1 遺構検出状況

23．SB 1 遺構検出状況　24．SB 2 遺構検出状況

25．SP検出状況①　26．SP検出状況②

27．SP検出状況③　28．SP検出状況④

表　目　次

Tab. 1　出土銅銭一覧表　Tab. 2　出土遺物観察表（土器類）

第Ⅰ章　序　　説

第１節　調査に至る経緯

本遺跡の発掘調査については、西都市立妻北小学校建設工事に伴い実施したもので、対象地の周辺には日向国府跡（国指定史跡）が所在し、以前には、妻北小学校のプールを建設する際、木簡が出土していることから、校内に遺構が遺存している可能性が高く、試掘調査をして対応を検討することとなった。

試掘調査は平成17年６月17日から６月18日まで行った。結果、９世紀後半から10世紀初頭頃と推定される竪穴住居跡や土師器坏等が出土し、遺物・遺構が遺存していることが確認された。

よって、時期的に日向国府跡と関連性が高いため、遺構の保存について協議を重ねたが、最終的には記録保存で措置することとなり、本調査を実施することとなった。

本調査の期間は、平成17年９月29日～平成18年１月11日である。

第２節　調査の体制

調査主体	教育長	三ケ尻　茂　樹
	社会教育課　長	伊　達　博　敏
	同　課長補佐	村　岡　満　徳
	同　主任主事	筌　瀬　明　宏
	同　主　事	津　曲　大　祐
調査庶務	同　主　査	重　永　浩　樹
調査員	同　係　長	蓑　方　政　幾（本調査）
	同　主　事	津　曲　大　祐（試掘調査）
調査指導	日　高　正　晴（西都原古墳研究所長）	
調査作業	緒方タケ子・押川ツル・金丸美保・黒木トシ子・児玉征子・篠原時江・関治代・長谷川クミエ・浜田スミ・疋田はる子	
整理作業	長谷川明美・中原昭美	

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境

第１節　概要

西都市街地の西方には、標高50～80mの通称「西都原」と呼ばれる台地がある。その台地東側には、標高20～30mの南北に延びた中間台地（中段域）があり、さらに、その下には沖積平野（市街地）が広がっている。

この西都原台地を中心にした地域には、陵墓参考地として治定されている男狭穂塚・女狭穂塚の巨大古墳をはじめ、前方後円墳30基、方墳１基、円墳278基で構成された特別史跡・西都原古墳群が分布している。また、南九州独自の墓性である地下式横穴墓が12基、横穴墓と地下式横穴墓の折衷型とされるタイプの横穴墓13基[(1)]等が確認されている。この折衷型とされるタイプの横穴墓は非常に貴重なことから、国の「地方拠点史跡等総合整備事業」（歴史ロマン再生事業）の中で保存・活用されることとなり、「西都原古墳群遺構保存覆屋」として平成11年度に建設され、一般公開されている。

西都原台地東側の中間台地（中段域）の北側には、日向国府跡や地下式墓寄生型消失円墳・地下式横穴墓・土壙等を検出した堂ヶ嶋第２遺跡[(2)]、南側には日向国分寺跡[(3)]（県指定）・同国分尼寺跡（推定）や堂ヶ嶋第２遺跡と同様に地下式墓寄生型消失円墳・地下式横穴墓が検出された国分第１[(4)]～３[(5)]遺跡等が所在している。また、これら遺跡の周辺には円墳や前方後円墳（いずれも特別史跡・西都原古墳群）が点在している。

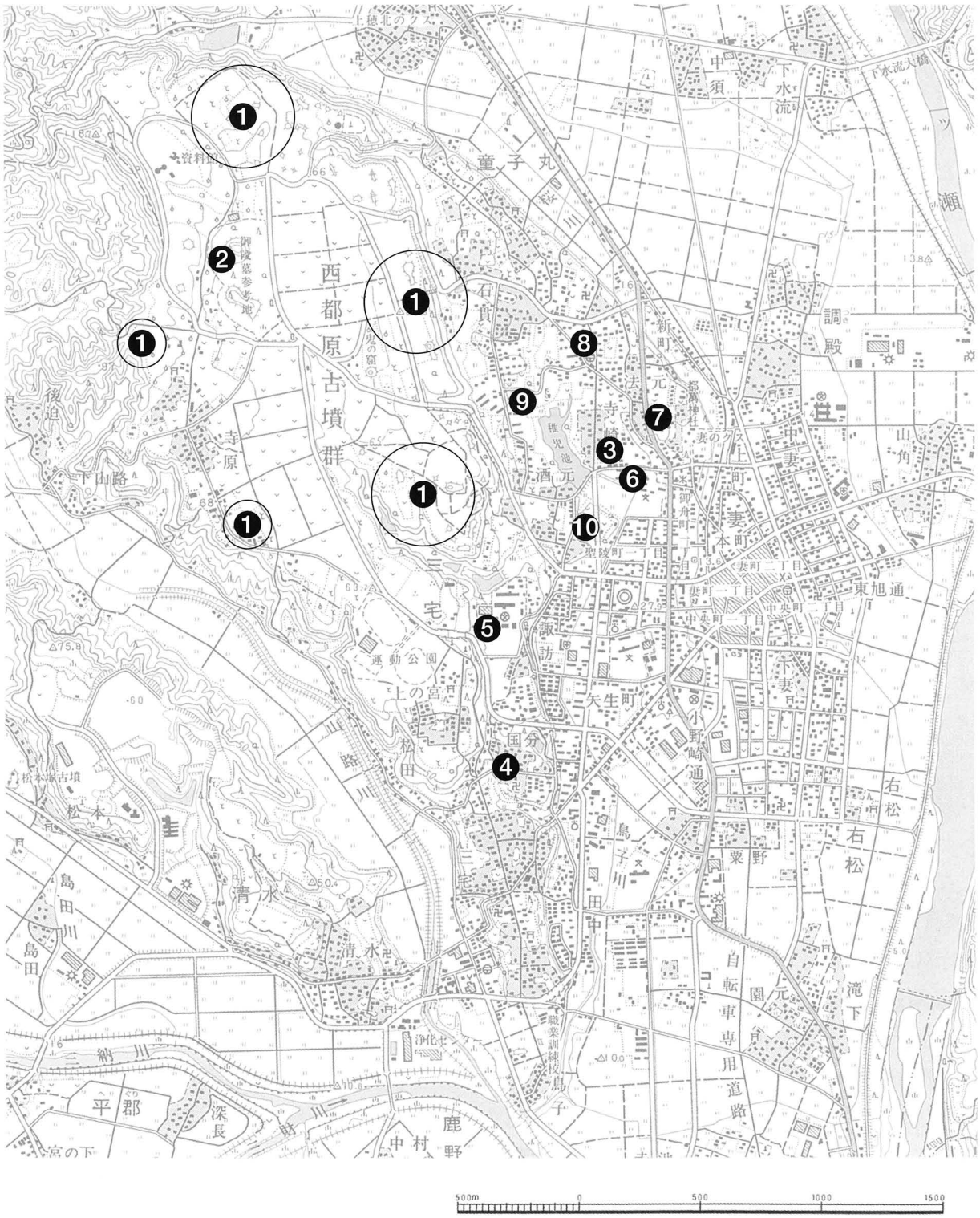
この中で、日向国府跡は、県教育委員会によって正殿跡や脇殿跡、そして、築地塀跡等が確認[(6)]されたため、国史跡として平成17年７月に指定を受けている。

本対象地は、その日向国府跡の南東端に位置し、県教育委員会によって調査され掘立柱建物跡等が検出されたＢ地区[(7)]（寺崎第５次）に近接していることから、日向国府に関連した遺構等が検出されるのではないかと注目された。

なお、本対象地を含む地域を寺崎遺跡という名称にしたことについては、本来、小字名で付けるのが通常で、実際には日向国府跡西側を南北に延びている市道（平田・童子丸線）の西側が大字三宅字寺崎であるが、通称周辺一帯を寺崎と称していることから、これに順じて「寺崎遺跡」とすることとした。

寺崎遺跡の北側には、律令期の道路状遺構ではないかと推定される遺構（法元遺跡Ｋ地点[(8)]）や７世紀から８世紀代を中心とした竪穴住居跡を多数検出（公共下水道事業に伴い実施した発掘調査[(9)]）した法元遺跡、東側には、石帯や豊後国の金剛宝戒寺と同笵の軒丸瓦（上妻遺跡Ａ・Ｂ地区[(10)]）や版築状の基壇と思われる遺構等（上妻遺跡Ｉ地点[(11)]）を検出し、官衙か白鳳期の氏寺が存在したのではと想定された上妻遺跡[(12)]が所在している。さらに、西側には、５世紀代の竪穴住居跡を多数検出し、西都原古墳群との関連性が注目された酒元遺跡[(13)]、また、河野家に古くから伝世されていた銅印「児湯郡印」（昭和30年２月、国重要文化財に指定）が出土しており、これら遺跡は官衙に関連した施設の広がりを示しているかもしれない。

いずれにしても、西都原台地はもちろん、日向国府跡、日向国分寺跡・同国分尼寺跡等を含む中間台地は、古代日向の政治・文化の拠点として栄えた歴史的環境を有する重要な地域であったと思われる。



1．西都原古墳群　　2．御陵墓（男狭穂塚・女狭穂塚）

3．日向国府跡（寺崎遺跡）　　4．日向国分寺跡　　5．日向国分寺尼寺跡

6．寺崎遺跡（妻北小）　　7．上妻遺跡　　8．法元遺跡

9．堂ヶ嶋遺跡（堂ヶ嶋第２遺跡）　　10．酒元遺跡

Fig. 1　寺崎遺跡周辺位置図（1/25,000）

第２節　本報告に関連する主な遺跡

１．寺崎遺跡[14]（昭和63年度～平成12年度）県教育委員会

県教育委員会では、昭和63年度～平成２年度かけて「国衙・郡衙・古寺跡等詳細分布調査」として西都市・佐土原町（現宮崎市佐土原町）・えびの市など計13箇所の分布地点の確認を行い、西都市では日向国分寺跡、(同尼寺跡推定)、上尾筋遺跡、寺崎遺跡を対象に確認調査が実施された。

また、平成３～７年度にかけては、「国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査」として、妻北地区の童子丸遺跡、上妻遺跡、寺崎遺跡等の確認調査が行われた。この中で、寺崎遺跡からは、東西方向に並ぶ柱穴列が検出され、付近が官衙遺跡の中心箇所であると推定された。そして、平成８年から平成12年度にかけては「国衙・郡衙・古寺跡等保存整備基礎調査」として寺崎遺跡にて国衙を特定するための確認調査が実施された。

この中で、平成10年度に実施された調査では、大形の二面庇付東西棟建物跡（桁行２間のみ）の建物が確認された。この建物は、位置を踏襲しながら掘立柱建物から基壇状積土の上に建つ礎石建物へと建替えが行われ、規模的にも大きさが他遺跡と比較して際立っていること等から正殿跡と推定された。また、これらに伴い多量の布目瓦や土師器、そして、外来系土器・円面硯・墨書土器等も出土したことから、平成11年２月には県教育委員会が中心部を日向国衙跡として確定した。

その後、平成11年度には、東脇殿と推定される梁間２間の南北棟建物（桁間８間のみ）や北・西・南面の築地塀等が確認された。

これら主要部分の建物跡等については、Ⅰ期～Ⅲ期に分類されている。Ⅰ期の成立年代は７世紀末で溝（F区）、廃絶の年代は８世紀後半で長舎状建物（F区）が確認されている。Ⅱ期としては、溝（P区）があるが、遺物が少量のため、時期的にはⅠ期の終期と３期の始期との間の時間幅が充てられている。Ⅲ期はａ期とｂ期に細分化され、Ⅲａ期の成立年代は９世紀初めで正殿（Ｆ区）及び東脇殿（H区）や古期築地塀雨落溝（M区～Ｑ区）など、Ⅲｂ期の成立年代は９世紀後半で正殿が礎石建物へと建替えられた時期、終期は10世紀後半で新期築地塀雨落溝（M区～Ｑ区）などが確認されている。これらを基に復元すると、南北がM区とＱ区の築地塀までの約96.0m、東西が残念ながら東側の調査を行っていないため明確でないが、正殿を中心にＮ区～Ｐ区の築地塀までを反転した約120.0mが政庁区域と想定される。

２．寺崎遺跡Ｅ地点[15]（平成２年度）西都市教育委員会

平成２年度の遺跡所在確認調査に伴う発掘調査にて確認された遺跡で、調査の結果、竪穴住居跡・溝状遺構・柱穴群等を検出した。

竪穴住居跡は、４軒検出しているが、いずれも方形プランのもので、時期的には共伴遺物等から５～６世紀後半に比定した。

溝状遺構は、５条検出しているが、１～４号は共伴遺物がほとんどなく時期を特定するのが難しいが、５号からは土師器椀をはじめ多量の土師器片や布目瓦片が出土し、時期的には奈良～平安時代に比定した。

柱穴群は、各トレンチから検出しているが、特に、第３トレンチに集中している。すべて円形であるが、中には径0.75m・深さ1.0mを測る大型のものも確認できた。さらに、柱痕部からは完形の坏をはじめ多量の土師器片及び布目瓦片が出土した。柱穴は直列に並んでいるものもあるが、４間以上だということだけで、規模的なことは狭小なトレンチ調査のため特定できなかった。しかし、これらの柱穴群の検出は、大規模な掘立柱建物跡の存在が想定され注目された。

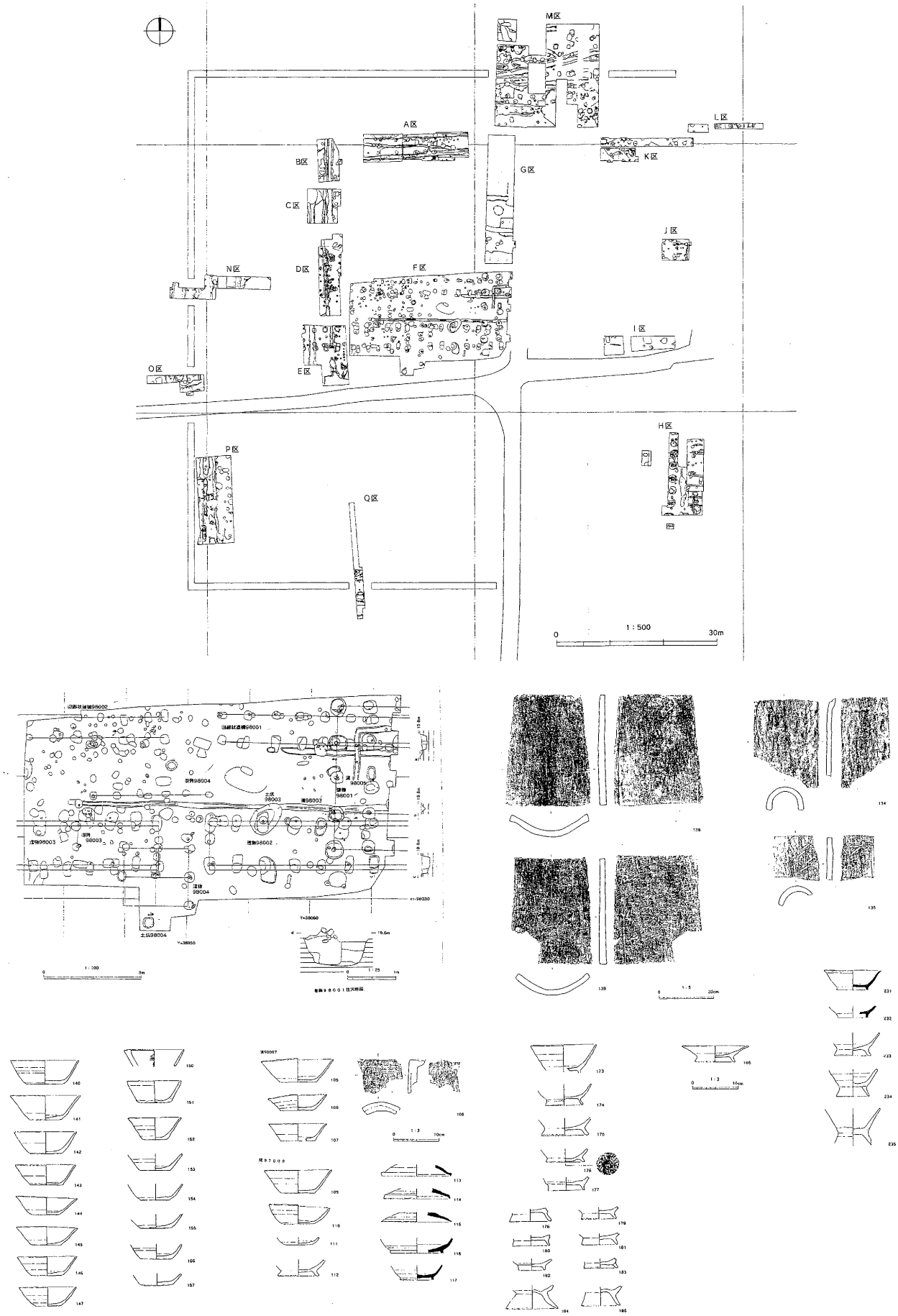


Fig. 2　寺崎遺跡遺構・遺物実測図（1/1,000・1/20・1/12）※

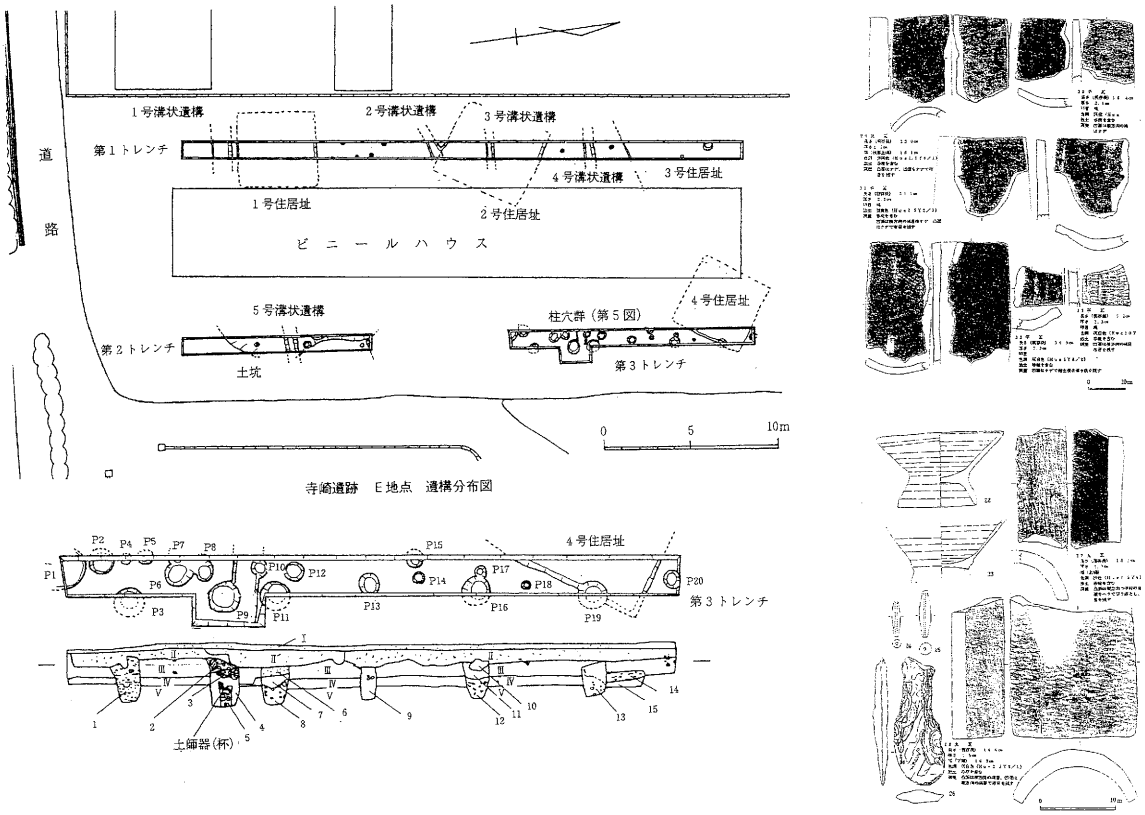


Fig. 3　寺崎遺跡E地点遺構・出土遺物実測図（1/400・1/20・1/10）

遺物は、総計3,000点程が出土しているが、その75%に当たる2,500点は土師器で、その他、縄文土器・須恵器・製塩土器・青磁・古瓦・石器・土錘等が出土している。

3．上妻遺跡Ⅰ地点[16]（平成2年度）西都市教育委員会

上妻遺跡は、寺崎・法元遺跡の東側に位置している。同遺跡の南側にはコノハナサクヤヒメを主神とする都万神社が所在し、また、律令期にはこの地方を中心にして勢力を有していた日下部氏の本拠地域でもある。

調査の結果、地表下0.20mで非常に硬い土層と敷石遺構を検出した。この硬い土層は版築と思われるが、確実に特定し得る資料に乏しく、版築状遺構とした。この版築状遺構からは、肥後系の複弁12葉蓮華文軒丸瓦が出土した。

敷石遺構は、版築状遺構を取り囲むように巡っているではと思われたが、本トレンチ周辺のみしか確認できなかった。しかし、この敷石遺構の西側一帯からは、土師器・須恵器及び古瓦が出土しており、律令期に関連した遺構ではないかと思われる。

遺物は、古瓦が全体の約50%を占め、その他、土師器・須恵器・陶器・石器等が出土しているが、特徴として、古瓦は格子目文が主体を成していることで、前述した寺崎遺跡とは異なった様相を呈している。

4．上妻遺跡A・B地区[17]（平成4年度）県教育委員会

上妻遺跡A区は上妻遺跡Ⅰ地点の道路を隔てた北側、上妻遺跡B区は上妻遺跡Ⅰ地点の北東約50mに位置している。上妻遺跡A区からは、目立った遺構は検出されなかったが、豊後国の金剛宝戒寺と

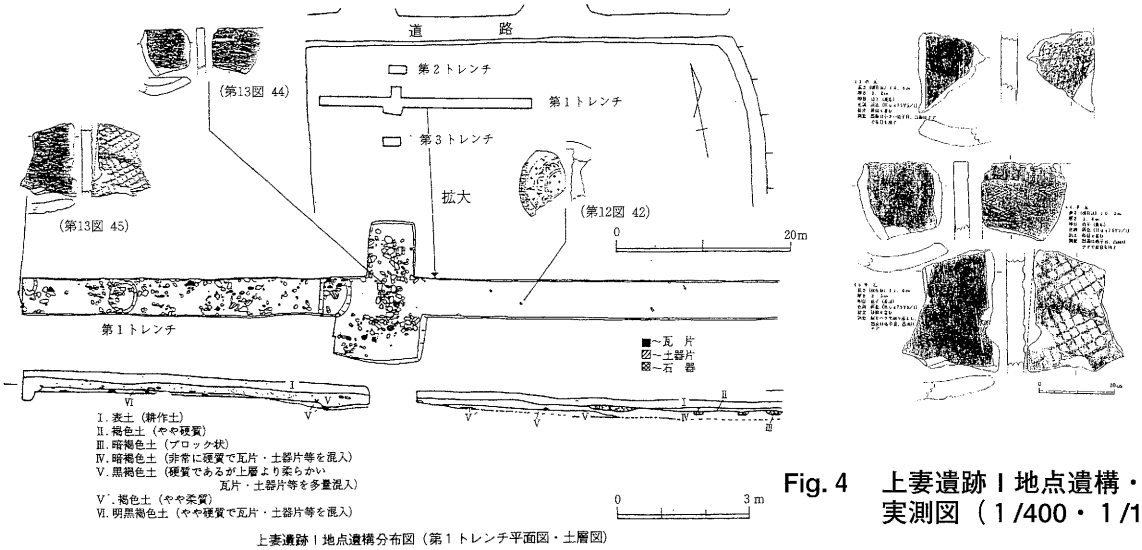


Fig. 4　上妻遺跡Ⅰ地点遺構・出土遺物実測図（1/400・1/10）

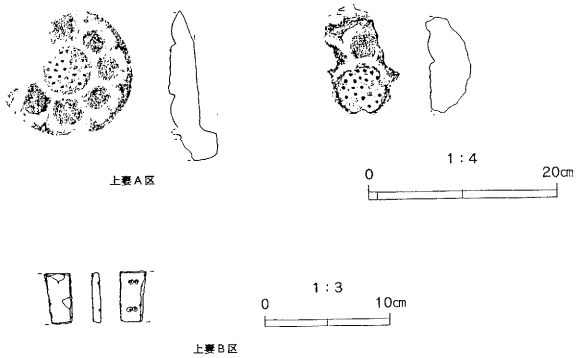


Fig. 5　上妻遺跡A区出土遺物実測図（1/8）※

同范の単弁八葉蓮華文軒丸瓦や格子目・縄目叩きの瓦等が出土している。上妻遺跡B区からは、ほぼ南北に小砂利を敷き詰めた幅0.95mの道状遺構が検出されているが、後述する法元遺跡K地点からも同様の遺構を検出しており、律令期に関連したものと思われる。また、格子目・縄目叩きの瓦をはじめ、蛇紋岩系の石帯が出土している

5．法元遺跡K地点[18]（平成2年度）西都市教育委員会

法元遺跡の北西部で、本対象地からは北西約600mと離れたところに位置している。調査の結果、竪穴住居跡・土坑・柱穴及び小砂利を幅3.5m・厚さ0.1mに敷き詰めた遺構を検出した。

この中で、小砂利を敷き詰めた遺構については、南北に延びており、小砂利に混じって格子目叩きの布目瓦が出土していることから、前述した上妻遺跡B区同様、律令期に関連した道状遺構ではないかと思われる。

遺物は、土師器・須恵器・古瓦・製塩土器等が出土している。

6．妻北小学校出土の木簡

この木簡については、「国衙・郡衙・古寺跡等の範囲確認調査概要報告書Ⅱ[19]」に詳しく掲載されている。昭和48年の妻北小学校のプール建設工事に伴い出土したもので、重機により掘削中に採取されたものである。地表下約1.2mの黒色土から出土したもので、溝状遺構等何らかの遺構を一部断ち切ったため出土した可能性が高いと筆者は推定している。

木簡は、体部の片側縁を欠き、裏面は二次的に火を受けて損傷している。両側に切り込みを入れ、全幅のまま端部に至る典型的なものである。全長は11.2cm・幅2.3cm・最大厚0.5cm、墨書はほとんど消えて判読できない。材質はスギ材である。

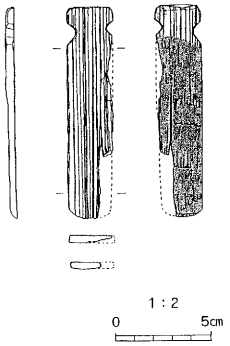


Fig. 6　木簡実測図（1/4）※

註

（1）宮崎県・西都市教育委員会「西都原地区遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第22集　1996

（2）西都市教育委員会「堂ヶ嶋第2遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第33集　2003

（3）　〃　「市内遺跡発掘調査概要報告書Ⅰ～Ⅻ」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第23～49集　1996～2007

（4）西都市教育委員会『西都原古墳研究所・年報』第16・17号　2000・2001

（5）　〃　「国分第3遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第38集　2004

（6）宮崎県教育委員会「寺埼遺跡」『国衙跡保存整備基礎調査報告書』　2001

（7）註（6）と同じ

（8）西都市教育委員会「上妻遺跡・石貫遺跡・寺崎遺跡・法元遺跡・酒元遺跡・堂ケ島遺跡・童子丸遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第14集　1991

（9）西都市教育委員会「堂ヶ嶋遺跡・寺崎遺跡・法元遺跡・童子丸遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第42集　2005

（10）宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅲ』　1994

（11）註（9）と同じ

（12）註（8）と同じ

（13）西都市教育委員会『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第8集　1989

（14）註（6）と同じ

（15）註（8）と同じ

（16）註（8）と同じ

（17）註（10）と同じ

（18）註（8）と同じ

（19）註（10）に掲載されているものを転載している。

※が付してある遺構及び出土遺物実測図についてはすべて註（6）から転載したものである。

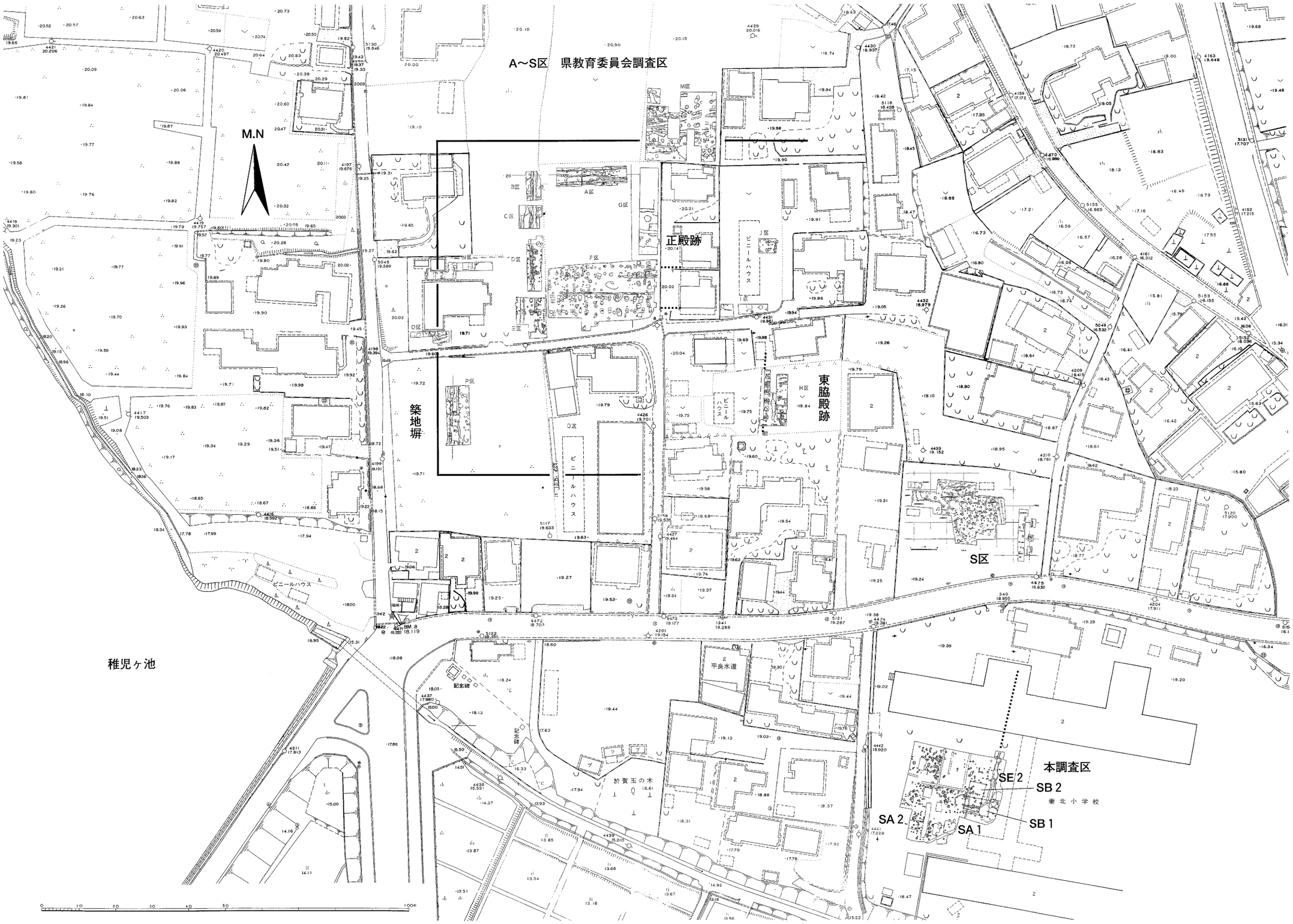


Fig. 7　調査区周辺遺構分布図（1/1,000）

Fig. 8　調査区遺構分布図（1/100）

第Ⅲ章　現況と調査区の設定

第１節　現況

対調査地の北西約100ｍには、県教育委員会の調査によって正殿跡や脇殿跡・築地塀跡等が確認され、平成17年７月14日付けで国史跡として指定を受けた「日向国府跡」が位置している。また、北側道路を隔てたＢ地区（県教育委員会・寺崎５次）からは、日向国府に関連した掘立柱建物跡等の遺構や遺物が検出されている。

本対象地を含む周辺は、妻北小学校の敷地内となっており、その敷地内の北側と南側に校舎が建てられている。その校舎は東西棟で、その間の空地に新校舎（多目的室棟）が建設されることとなった。現在、空地はコンクリート舗装されており、児童生徒の遊び場や学校行事の際には駐車場として使用されているようである。

第２節　調査区の設定

調査対象は、空き地内の新校舎（多目的室等）が建設される部分のみで、縦22.1ｍ×横28.0ｍ、面積約620㎡の全面調査を行った。

まず、調査区内に10ｍ方眼のグリットを組み、それに基づいて調査を進めた。

調査は、重機によりコンクリート及び薄い路盤を取り除き、そして、人力により掘削を行い遺構・遺物の検出に努めた。

なお、空き地のほとんどが調査対象区となったため、土置き場のことを考慮して北側と南側に二分割して、南側から調査を行った。

第３節　層序

対象地内は、旧校舎等が建てられていたようで、かなり造成され、また、基礎工事（コンクリート基礎）によってかなり削平及び撹乱を受けていた。

全体的にアカホヤ火山灰層は遺存しておらず、検出面は明黄褐色（10YR６／６）及びにぶい黄橙色のローム層（10YR７／４）がほとんどであったが、南側の一部分にアカホヤ火山灰層の下層となる黒褐色ロームが遺存していた。

本対象地の元々の地形は、北西側から南側及び南東側に向って緩やかに傾斜していたことが見て取れる。

なお、試掘調査で対象地の西側を掘り下げているが、そこでは、コンクリート舗装を取り除くと、造成土となり、その下は黒褐色土（10YR３／１）で遺物包含層となり、そして、地山（オリーブ褐色2.5YR４／４）となり、礫層（黄褐色2.5YR５／４）となっている。礫層までは地下約0.68ｍと浅く、かなり削平されており、このことからも北西側一帯は地形的に高かったと判断される。

第Ⅳ章　調査の記録

第１節　遺構と遺物

１．縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は確認できなかったが、対象地の南西側と柱穴内から、わずかではあるが出土した。いずれも小片であるが、文様の特徴から、いくつかに分類できた。

125は貝殻条痕文系土器で、口縁部には棒状工具による連続刻目、胴部には貝殻復縁による条痕が施された円筒系の土器である。126・127も胴部に沈線内に撚糸文が充填された円筒系の土器である。128は胴部で ヘラ状工具で部分的に文様が描かれている。わりとあらいナデ調整が施されている。125は縄文早期の前平式、126・127は塞ノ神式と呼ばれている土器群に含まれる。

２．古代以降の遺構と遺物

SA（竪穴住居跡）

竪穴住居跡は２軒検出した。これらとは別に、調査の段階では溝状遺構の南部にあまりにも土師器片が集中しているところがあり、竪穴住居跡の可能性も含めて検討したが、最終的にプランを確認することができず今回は溝状遺構として取り扱った。

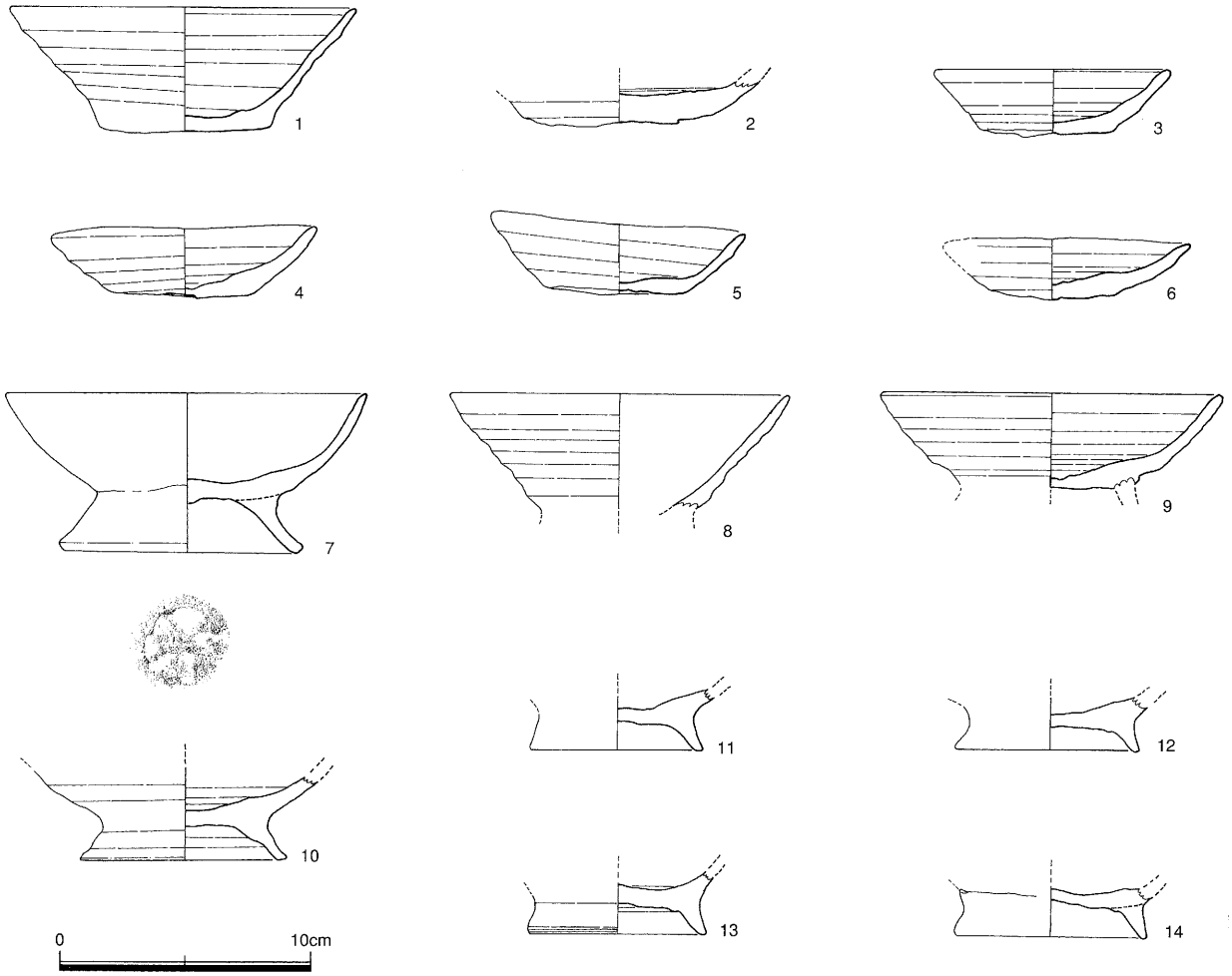


Fig. 9　試掘調査第２トレンチ出土遺物実測図（１/３）

SA 1

ⅰ立地

対象地の南西側で、地形的には緩やかに傾斜したところに位置している。

この竪穴住居跡は、本調査に先行して行った試掘調査でも確認されおり、遺構内から多量の土師器が出土している。その中から図化できるものを抽出して掲載（Fig. 9）した。

ⅱ規模と構造

1号住居跡は、長軸3.3m・短軸3.0mの規模を有する方形プランのものである。検出面からの深さ0.4～0.12mで、上部が削平されたことにより、かなり浅くなっている。床面は、北から南に向かって緩やかに傾斜しており、その比高差は0.12mを測る。主柱については、住居跡内に6個柱穴を検出したが、深さや配置状況等を考慮すると、いずれも本遺構に伴うものではない可能性が高く、周辺に分布している掘立柱建物跡の柱穴の一部分と思われる。

ⅲ出土遺物

遺物は量的にはかなり多く、試掘調査のものも含めて、土師器約120点・須恵器3点・瓦2点・鉄塊2点の総数127点が出土している。器種的には土師器が圧倒的に多く、全体の94%を占めている。器形的には、坏及び椀がほとんどで、その他、皿・台付皿が含まれている。須恵器は円面硯と甕が出土している。

1～14は試掘調査、15～43は本調査の際出土したものである。この中で、土師器坏は口径9.3～15.4cm、器高2.1～4.9cm、底径4.9～7.7cmの範囲に含まれる。口径に幅があるのは、皿に近い小さな坏まで含めているからで、本報告では小坏として取り扱った。また、土師器坏は器形の特徴により、次のように大別できる。

底部と胴部の境がはっきりしており、内湾気味に口縁部に至っているもの（5・20・26）

底部と胴部の境がはっきりしており、直線的に口縁部に至っているもの（4）

境がはっきりしなく底部から内湾気味に口縁部に至っているもの（2・6・16・17・19・27）

胴部と底部が段状や一旦外反し、内湾気味に口縁部に至っているもの（3・18・22・23・24・28）

胴部と底部が段状や一旦外反し、直線的に口縁部に至っているもの（1・15・21・25）

この境ははっきりしているが段状や一旦外反しているものの中には、円盤状貼付高台坏と呼称されているものがわずかではあるが確認できる。

土師器椀は、胴部から口縁部の特徴によって大別すると次のようになる。

坏部が内湾しながら口縁部に至っているもの（7・9・10・37）

直線的に延びて口縁部に至っているもの（8）

に分かれる。また、脚部の特徴によって大別すると次のようになる。

細く、長く、端部が丸いもの（37）

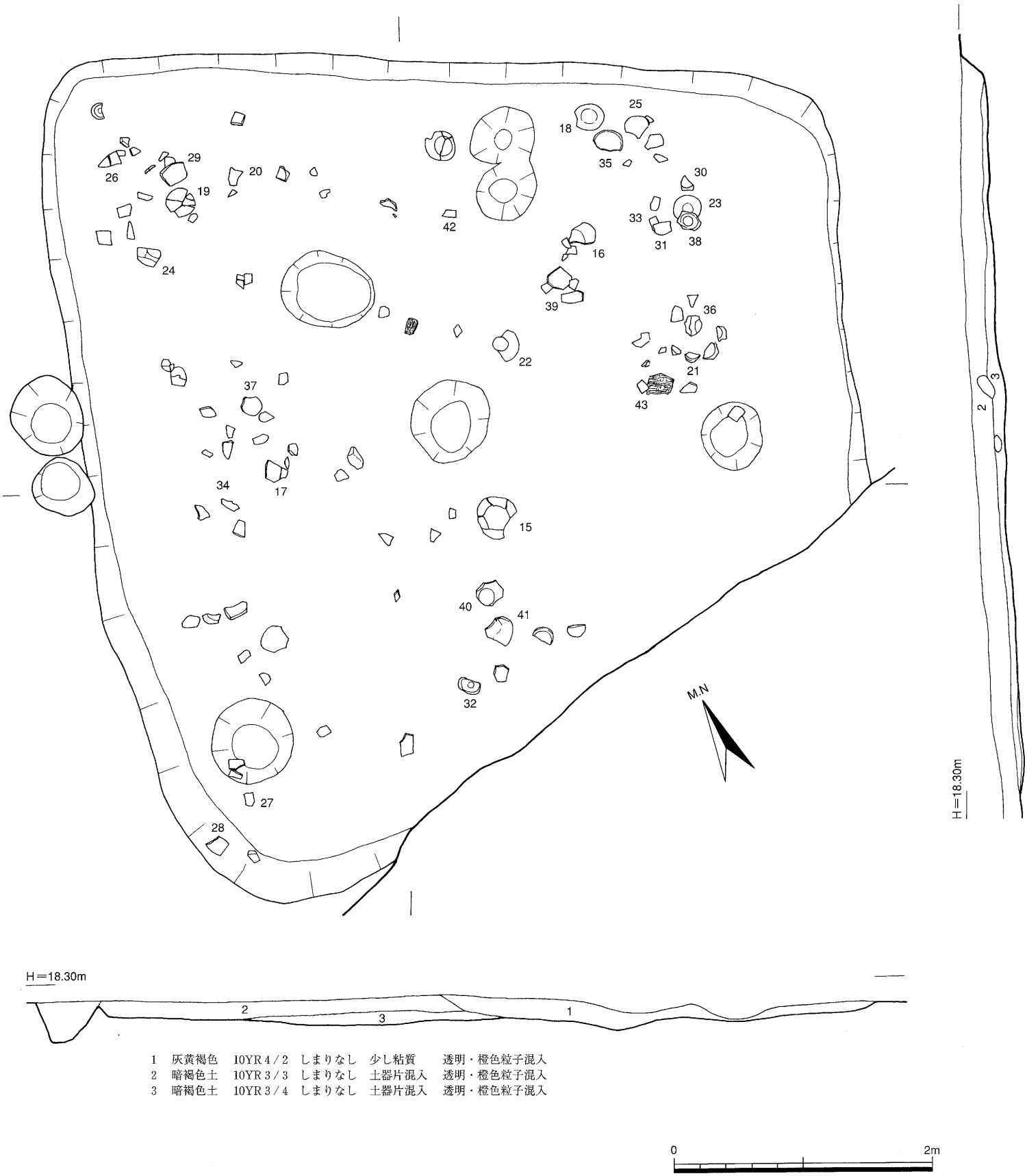
細く、長く、端部が平たいもの（10）

細く、短く、端部が丸いもの（39）

断面二等辺三角形状で、短いもの（11・12・13・14・38）

その他、35は内湾しながら、36は直線的に口縁部に至る皿、40・41は断面三角形の台を有する台付皿である。42は、小片ではあるが須恵器の円面硯で、推定口縁部径11.8cmを測る。43は、須恵器甕の胴下部と思われる。

なお、これらを含め遺物の詳細については、Tab. 2 出土遺物観察表を参考にしていただきたい。



1　灰黄褐色　10YR 4 / 2　しまりなし　少し粘質　透明・橙色粒子混入
2　暗褐色土　10YR 3 / 3　しまりなし　土器片混入　透明・橙色粒子混入
3　暗褐色土　10YR 3 / 4　しまりなし　土器片混入　透明・橙色粒子混入

Fig.10　SA 1 遺構実測図（1 /40）

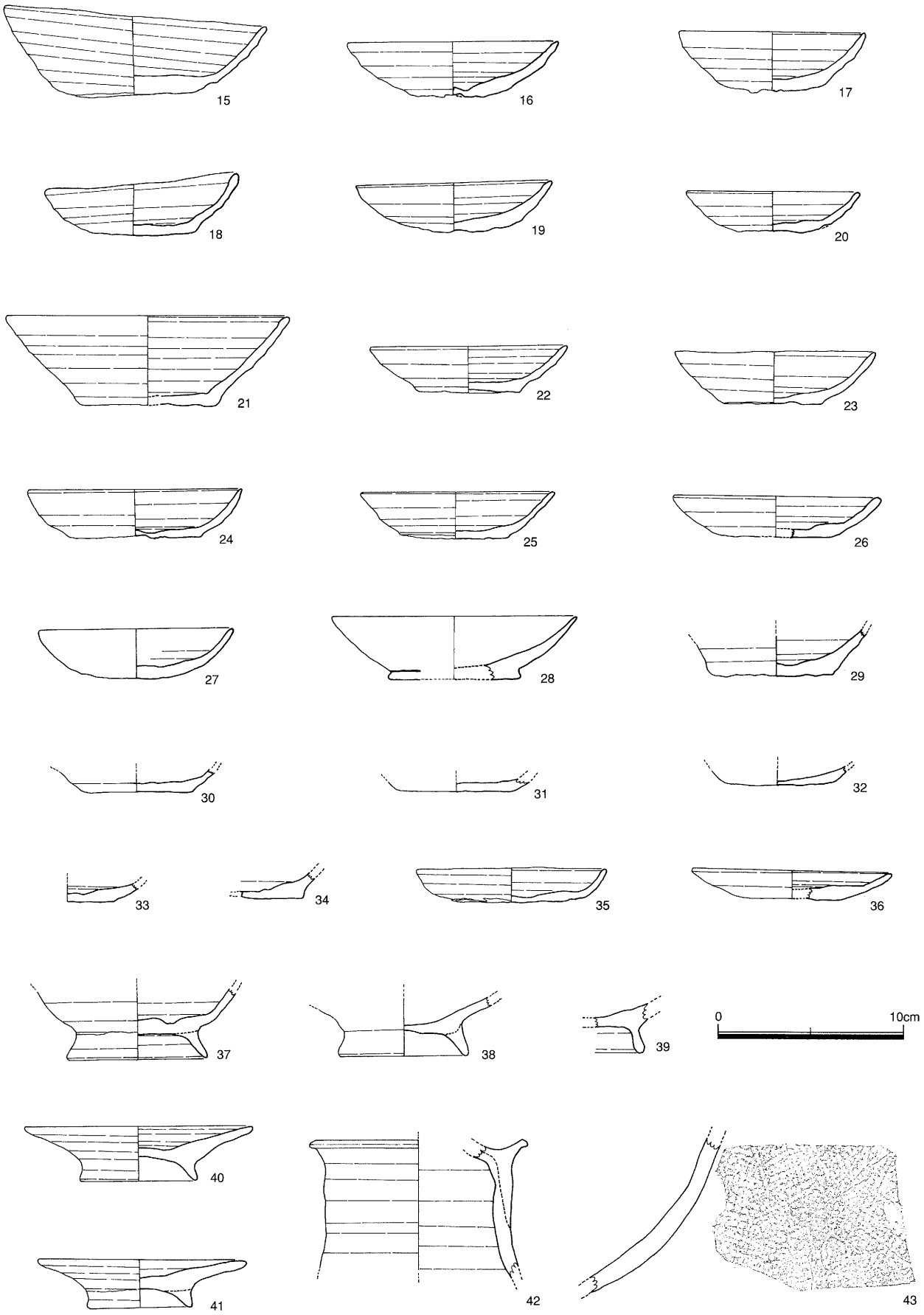


Fig.11　SA 1 出土遺物実測図（1 / 3）

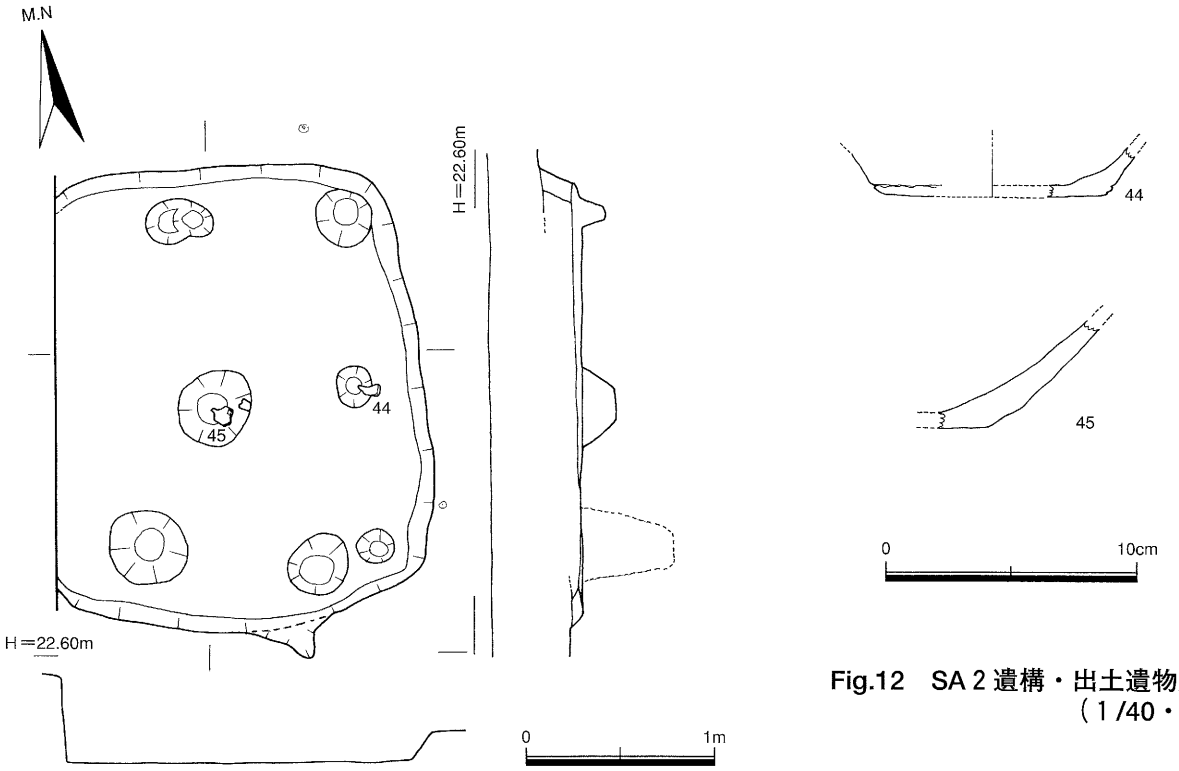


Fig.12　SA 2 遺構・出土遺物実測図
（1/40・1/3）

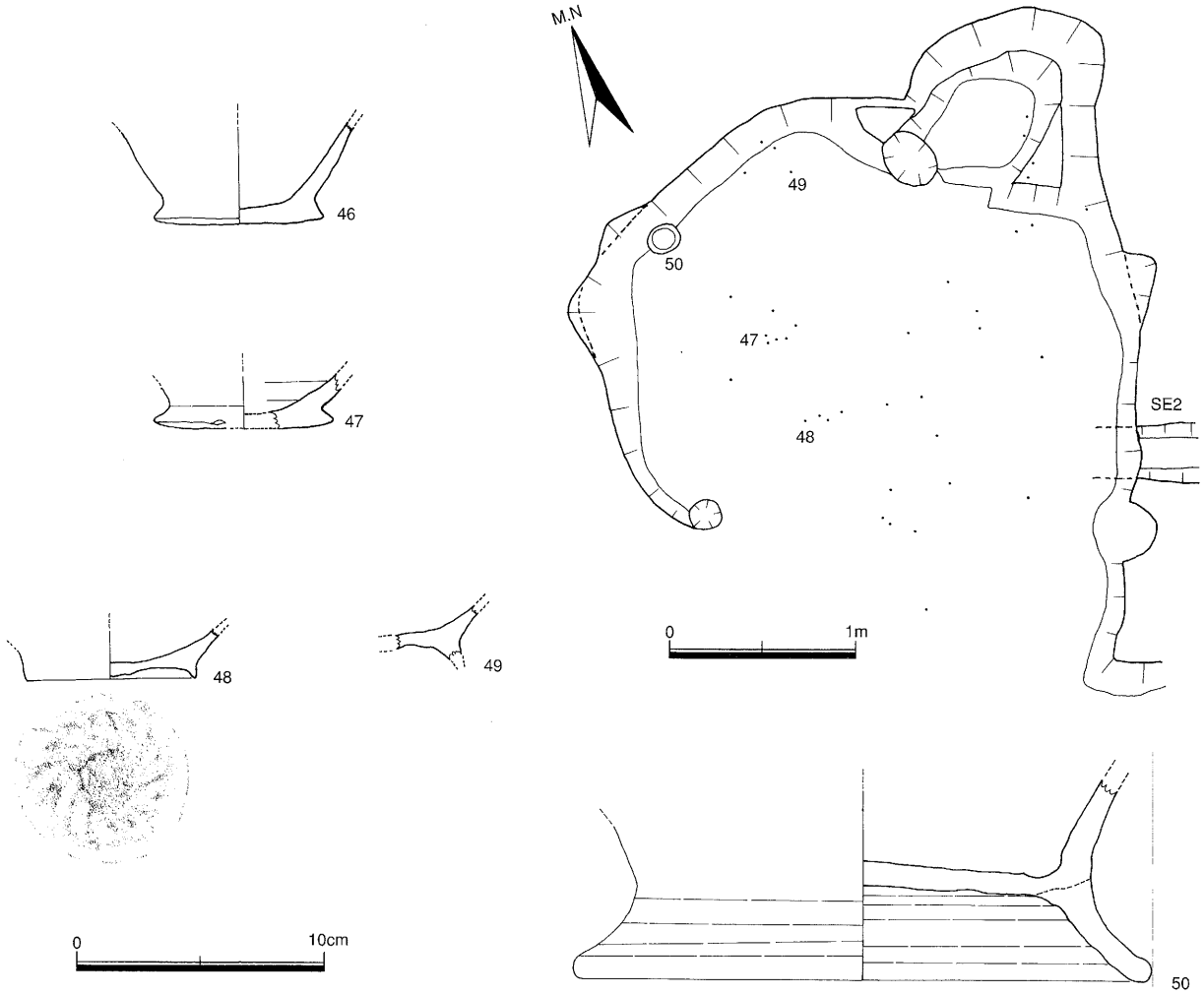


Fig.13　SC 1 遺構・出土遺物実測図（1/40・1/3）

SA 2

ⅰ立地

対象地の南西側に位置している。検出面はアカホヤ火山灰層下層の黒褐色ロームである。

ⅱ規模と構造

東辺2.1m、北辺及び南辺は対象地外へ延びているためプランは特定できない。検出面からの深さは1号同様浅く、0.06～0.20mを測り、床面は平坦である。主柱は住居跡内に8個柱穴を検出しているが、深さ、配置状況等を考慮すると、いずれも本遺構に伴うものではないと思われる。

共伴遺物が極端に少なく、時期特定は難しい。

ⅲ出土遺物

遺物は極少量で、土師器小片3点・瓦器1点の4点が出土したのみである。44は土師器坏の底部、45は瓦器鉢形土器の底部である。

SC 1（土坑）

ⅰ立地

対象地内の中央部南側寄りに位置している、検出面は明黄褐色ロームである。

ⅱ規模と構造

長軸1.79m・短軸1.48mの規模を有する楕円形プランである。検出面からの深さ0.33～0.45mを測る。検出面は南から北に向かって、床面は北から南に向かって下がっている。

ⅲ出土遺物

遺物は土師器約60点・須恵器3点・縄文土器1点の総数64点が出土している。土師器は器形的に坏（46・47・48）と椀（49）が多いが、中には50のように大型の盤？と思われるものも出土している。脚裾径23.1cmを測るもので、外面の脚部は回転ナデ、胴下部は縦方向のナデ、内面の底面は磨き、胴下部は斜め方向のナデが施されている。

SE（溝状遺構）

溝状遺構は調査地の東側と中央部で検出している。

SE1

ⅰ立地

調査地の東側で検出したもので、南北に延びている。

ⅱ規模と構造

北部で幅0.90～1.48m、深さ約0.20m、中央部で幅0.55～1.54m、深さ0.29～0.34m、南部で幅約1.25m、深さ約0.30mを測るが、南部は流末で扇状に広くなっている。現存長11.8mを測る。

なお、北部では後世の撹乱を受けており、溝状遺構が切断あるいは底面部分しか遺存していないが、確実に北へと延びていることが見て取れる。

ⅲ出土遺物

遺物は量的には全体的に多く、土師器約700点・須恵器約10点・瓦2点・土錘3点等の総数約715点が出土している。器種的には土師器が圧倒的に多く、全体の97%を占めている。器形的には、坏及び椀がほとんどで、その他、鉢・甕等が含まれている。須恵器は坏蓋・椀・甕等が出土している。

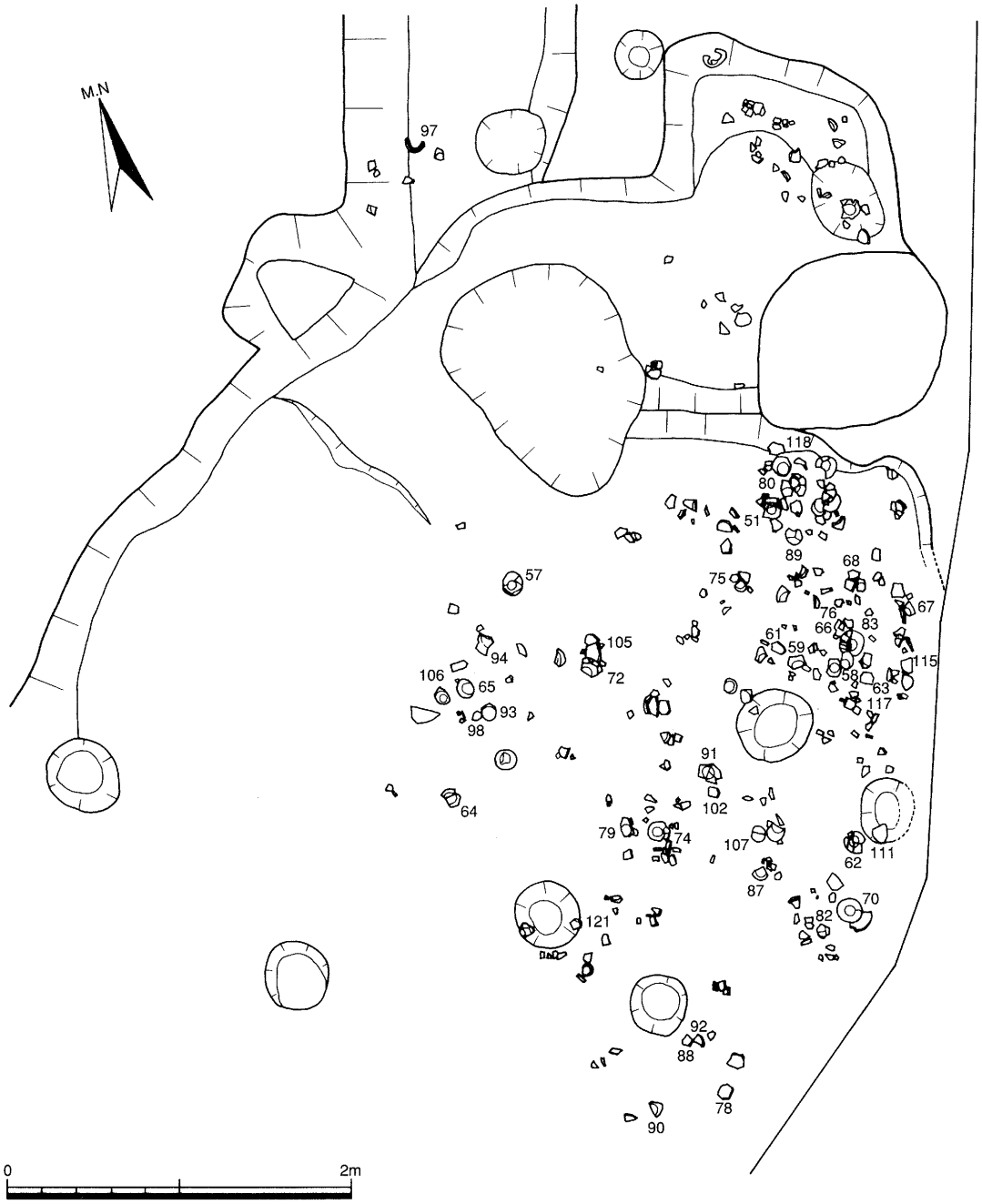


Fig.14　SE 1（南側）遺構実測図（1/40）

51～93は土師器坏で、口径11.4～13.6cm、器高3.6～4.9cm、底径4.8～7.0cmの範囲に含まれる。この数値が示すように、大きさがある程度一定しており、SA1のように小さな坏はあまり見受けられない。これらを全体が把握できるものをSA1と同様、器形の特徴によって大別すると次のようになる。

底部と胴部の境がはっきりしており、直線的に口縁部に至っているもの（55・56・58・59）

底部と胴部の境がはっきりしており、直線的に立ち上がるが、口縁部で若干外反しているもの（60）

底部と胴部の境がはっきりしなく、底部から内湾気味に口縁部に至っているもの（52・54・57）

底部と胴部の境がはっきりしなく、底部から直線的に口縁部に至っているもの（51・53・57）

底部と胴部の境で段状や一旦外反し、内湾気味に口縁部に至っているもの（63・67・68・71）

底部と胴部の境で段状や一旦外反し、直線的に口縁部に至っているもの（62・64・65・66・69・70・72・73）

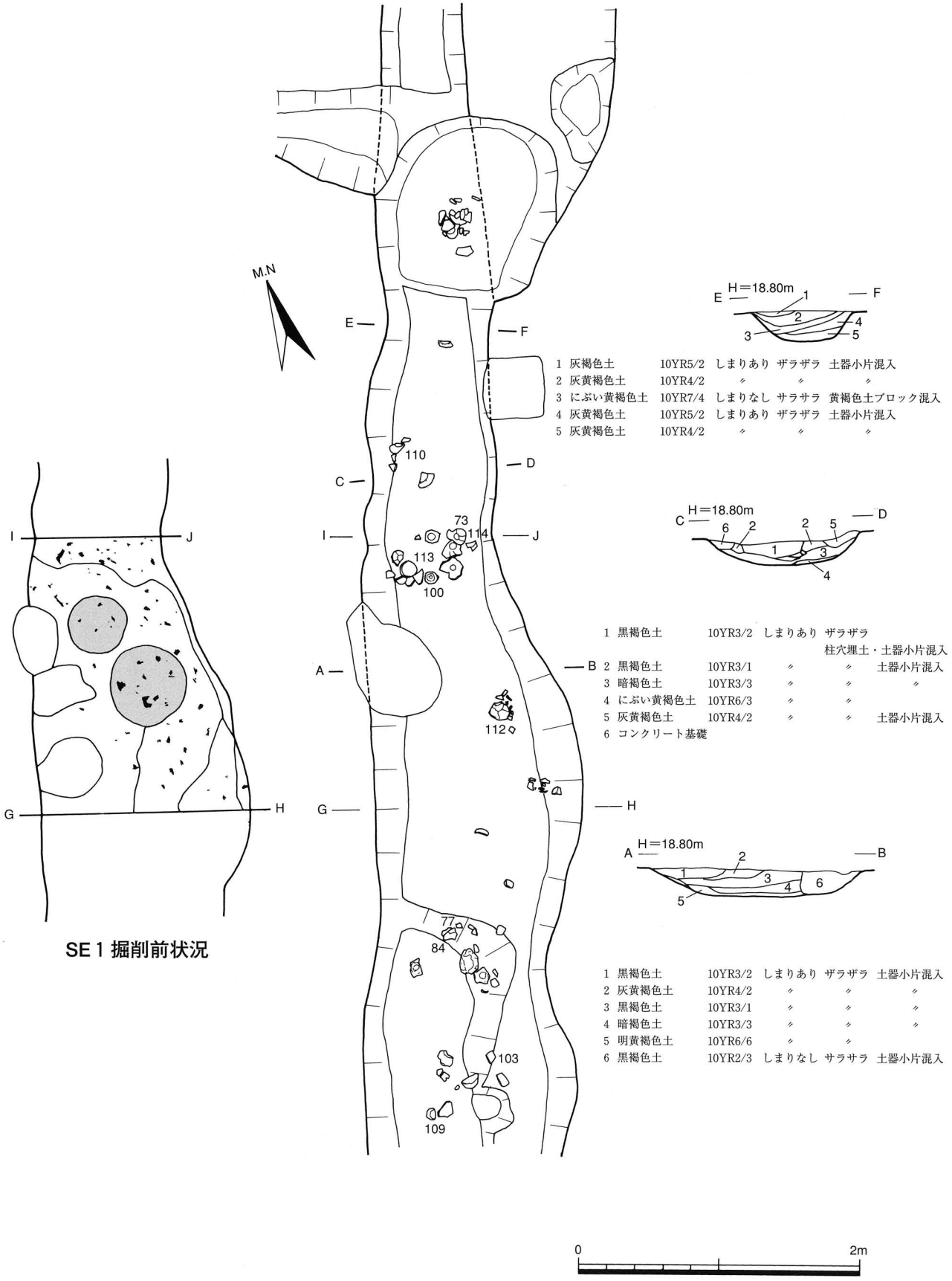


Fig.15 SE 1 （北側）遺構実測図・土層図（1 /40）

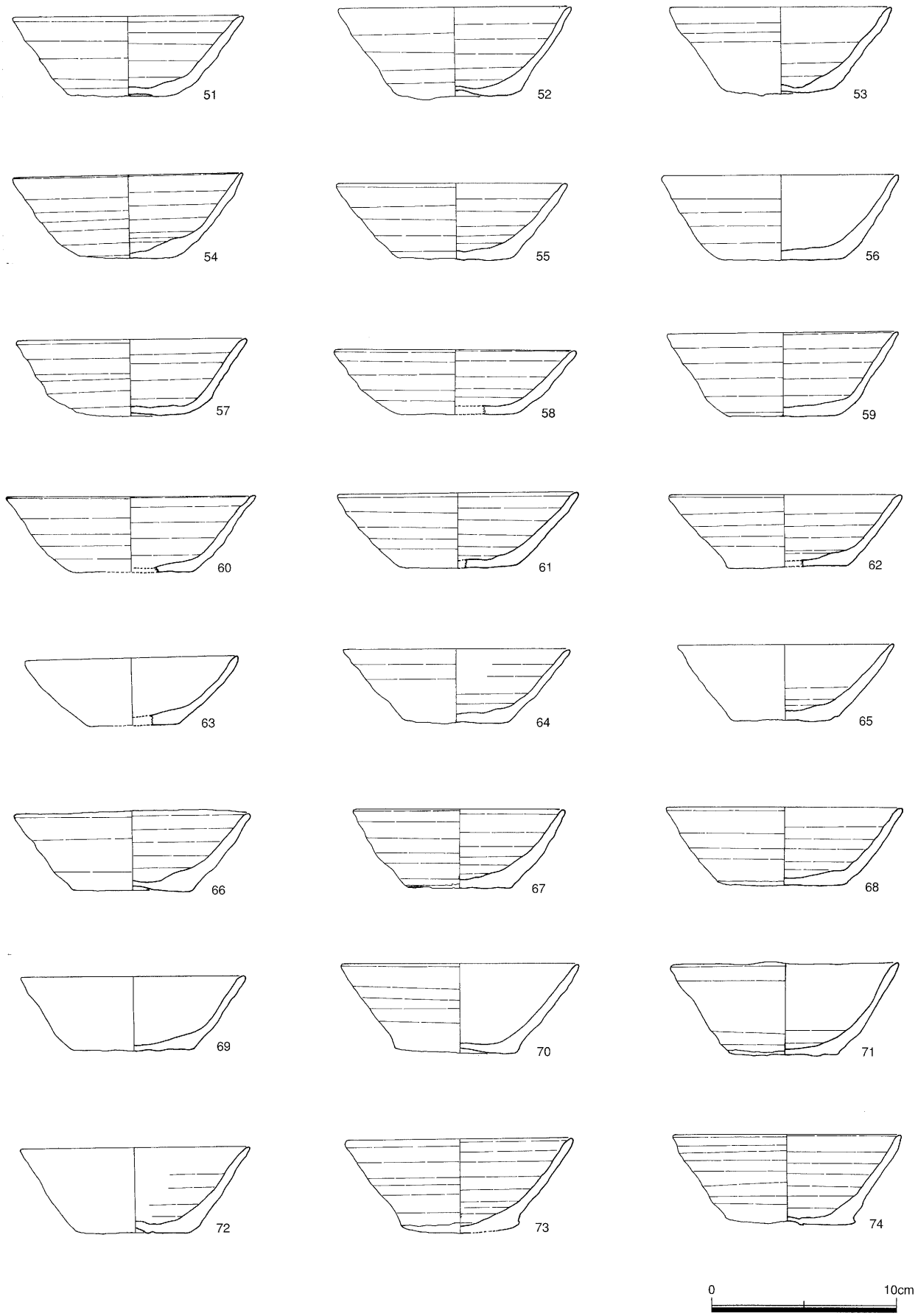


Fig.16　SE 1 出土遺物実測図（1 / 3）

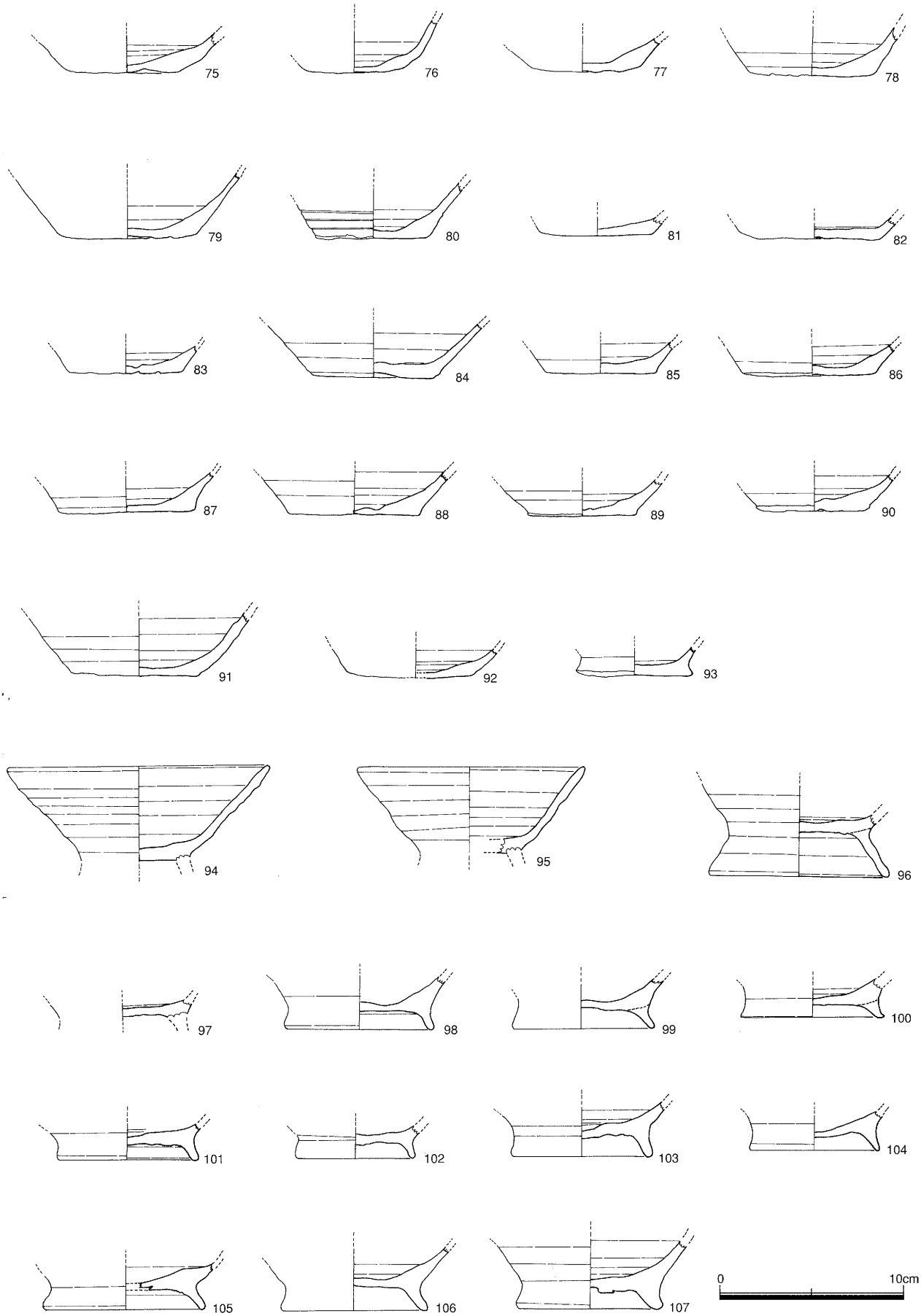


Fig.17　SE 1 出土遺物実測図（1 / 3）

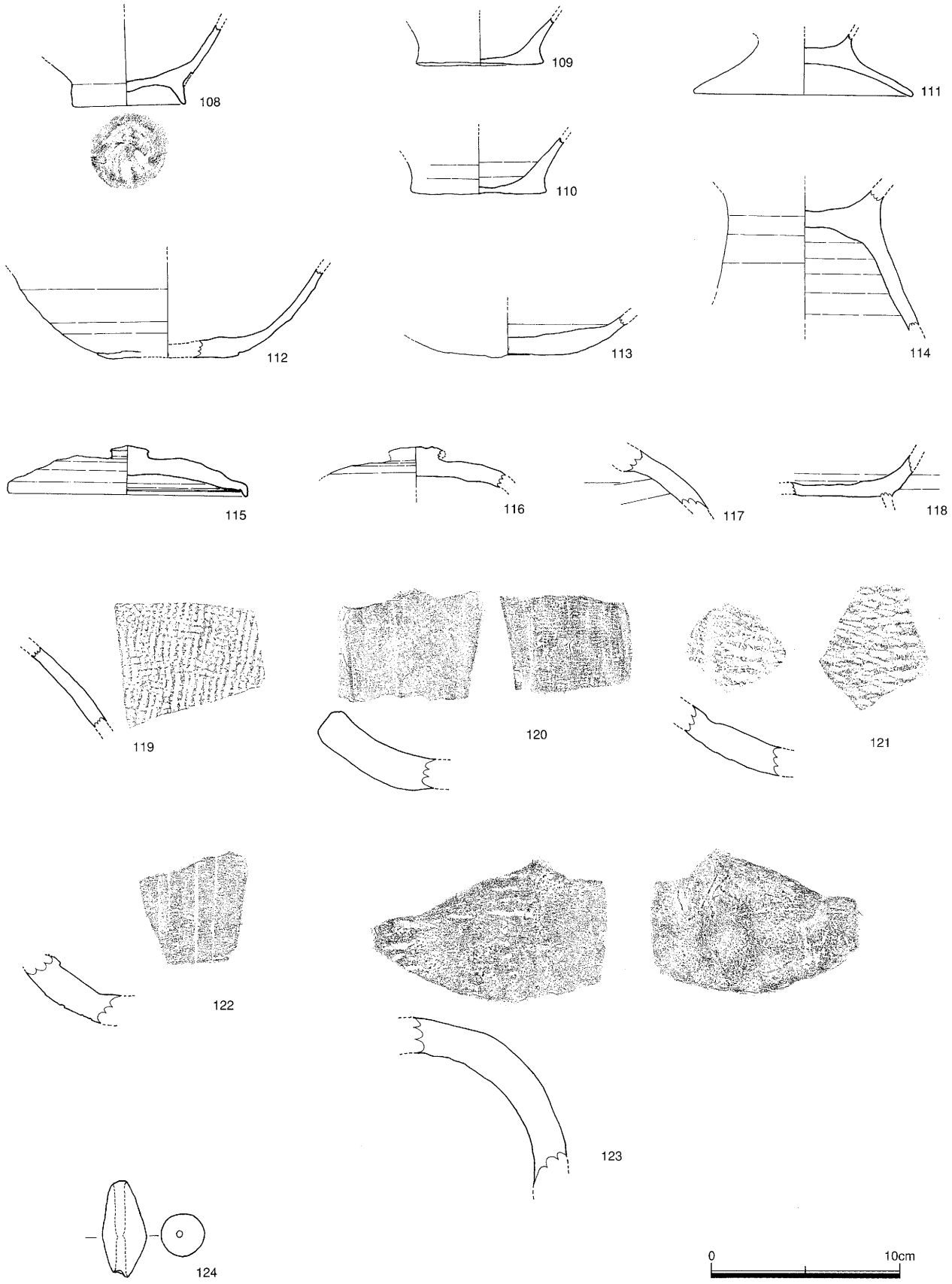


Fig.18　SE 1 出土遺物実測図（1 / 3）

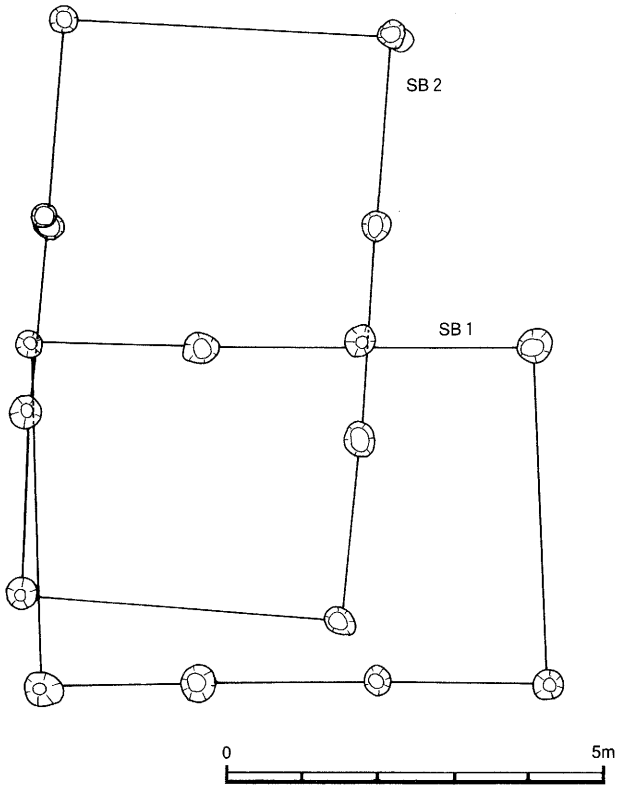


Fig.19　SB 1 ・ 2 遺構実測図（1 /100）

底部と胴部の境で段状や一旦外反し、直線的に立ち上がるが、口縁部は若干内湾のもの（74）

この中で、段状や一旦外反しているものには、円盤状貼付高台坏と呼称されているものがわずかではあるが確認できる。

94～108は土師器椀であるが、全体を把握できる完形のものは残念ながら出土していない。94・95は口縁部から底部で、94は推定口径14.3cm、95は口径12.4cmを測る。いずれも回転ヨコナデ調整が施されている。95～108は底部から脚部で、脚部径5.9～9.8cmの範囲に含まれる。

これらを脚部の断面で大別すると次のようになる。

細く、長く、端部が丸いもの（96）

細く、短く、端部が丸いもの（98・99・101・102・103・105・106）

太く、短く、端部が丸いもの（107）

断面二等辺三角形状で、短いもの（104・108）

短く、端部が平らなもの（100）

この中で、唯一108には花弁状圧痕が施されている。

109・110は土師器坏ではなく立ち上がりから鉢と思われる。111は土師器椀の脚部、112・113は土師器大椀の底部、114はかなり高めの高台が付く椀（？）の胴部から脚部と思われる。脚部は調整がわりと粗雑で、粘土紐痕が確認できる。これらいずれも風化著しいが、回転ヨコナデ調整が施されている。115は宝珠つまみを有する須恵器坏蓋である。嘴口の口縁部で、全体的に灰かぶりが見受けら

れる。116も宝珠つまみを有しているが115に比べ扁平である。117は須恵器甕の頸部、118は須恵器椀の底部である。いずれも回転ヨコナデ調整が施されている。119は須恵器甕の胴部である。120～122は平瓦で、120は凸面が叩き板によるナデ調整が施され、凹面には布目痕を有している。121は両面に横位の粗い縄目叩き、122は両面叩き板によるナデ調整で凹面に布目痕を有している。123は凸面に横位の粗い縄目叩きが施され、凹面には布目痕を有している。124は長さ5.1cm、幅2.3cmの土錘である。

SE 2

ⅰ立地

調査地の中央部で検出したもので、東西に延びている。このSE 2は古銭を多く出土したSP5及びSC 1と重複している。その相互関係はSE 2がSP 5・SC 1を切っていることから、SE 2よりもSP 5・SC 1の方が古いことが確認できた。

ⅱ規模と構造

北部で幅0.38～0.60m、深さ0.07～0.10m、現存長約4.8mを測る。

ⅲ出土遺物

遺物は、一括も含め、全く出土していない。

SB（掘立柱建物跡）

掘立柱建物跡は、はっきり特定できたのは2棟で、その他は撹乱やあまりにも柱穴が集中していたため、特定が難しかった。

SB 1

ⅰ立地

対象地の南東部から検出したもので、SB 2の南側と1／2程度が重複している。さらに、SC 1及びSE 1・SE 2とも重複している。

ⅱ規模と構造

1×3軒の東西棟で、桁行（ＮＳ）4.60m、梁間（ＥＷ）2.10～2.40mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.34～0.50m、深さ0.11～0.67mを測る。床面積は約26.2㎡である。なお、深さの差が大きいのはSE 1と切り合っているためである。

ⅲ出土遺物

遺物は、土師器坏・土師器椀、土師器甕等が出土しているが、量的には少なく8点である。145は土師器坏の底部で、風化著しいが回転ヨコナデ調整が施されている。

SB 2

ⅰ立地

SB 2は、南部がSB1と重複している。さらに、SB 1同様SC 1及びSE 1・SE 2とも重複している。

ⅱ規模と構造

1×3軒の南北棟で、桁行（ＮＳ）4.20m、梁間（ＥＷ）2.40～2.80mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.40～0.42m、深さ0.21～0.56mを測る。床面積は約32.3㎡である。

ⅲ出土遺物

遺物は土師器坏をはじめ、土師器椀・甕、須恵器坏蓋・甕等約60点が出土している。あまりにも小片が多く、その中から特徴のあるものだけを抽出（Fig.20）して掲載した。149は土師器椀の脚部で、脚は細く、長い。150は土師器椀で、口縁部及び脚部が欠損している小片である。いずれも、回転ヨコナデ調整が施されている。156は製塩土器の胴部小片である。

Tab.1　出土銅銭一覧表

NO.	遺構名	銅貨名	初鋳年	時代	備考
159	SP 5	開元通寶	621	唐	
160	〃	皇宋通寶	1037	宋	
161	〃	〃	〃	〃	
162	〃	〃	〃	〃	
163	〃	元豊通寶	1078	宋	
164	〃	〃	〃	〃	
165	〃	〃	〃	〃	
166	〃	洪武通寶	1368	明	
167	〃	〃	〃	〃	
168	〃	〃	〃	〃	
169	〃	永楽通寶	1408	明	
170	〃	天元通寶			
171	〃	咸□元寶	998	宋	咸平元寶？
172	〃	□□通寶	1078	宋	元豊通寶？

SP（柱穴）

対象地全体からかなりのSPを検出した。これらは掘立柱建物のものであると思われるが、あまりにも多く、重複しており、さらに、旧校舎の基礎工事（コンクリート基礎）により撹乱されていたため、２棟しか特定できなかった。しかし、いずれにしても、これらのことは、掘立柱建物が何回も建替えられたことを物語っている。

これらSPの中で、SB１とSB２とが重複したところに位置しているSP５からは19枚もの古銭が出土した。これら古銭は礫の下から出土したもので、159「開元通寶」、160～162「皇宋通寶」、163～165・172「元豊通寶」、166～168「洪武通寶」、169「永楽通寶」、170「天元通寶」、171「咸□元寶」（咸平元寶）が収められていた。これらについては、Tab１出土銅銭一覧表を参考にしていただきたい。

その他、SPからは、縄文土器６点、土師器約480点、須恵器10点、陶磁器６点、丸瓦１点、土錘１点等が出土した。器形的に土師器はほとんどが坏で、皿・甕が含まれている。須恵器は甕、陶磁器は青磁・染付等が含まれている。その中から、図化できるものを抽出（Fig.20）して掲載した。

133を除く129～145は土師器坏であるが、小片が多く、全体を復元できるのは129・130のみである。129は口径11.2cm・底径7.0cm・器高2.7cm、130は推定口径11.4cm・推定底径5.5cm・器高3.1cmの土師器坏である。いずれも風化著しいが回転ヨコナデ調整が施されている。131・131は土師器坏の小片で回転ヨコナデ調整、134～145は土師器坏の底部で回転ヨコナデ調整が施されている。また、この底部のすべてがヘラ切り底で、SA1で分類したもののほとんどが含まれている。146～151は、土師器椀である。146・147は口縁部、148・150は胴部、149・151は脚部である。この中で、149は本遺跡出土でも最も細長く、151は脚の短いタイプのものであるが、151には花弁状圧痕が施されている。いずれも回転ヨコナデ調整である。152は粗雑な作りの土師器甕の胴部で粘土紐痕が確認できる。155は土師器鉢の口縁部、156は見た目にはかなり赤味（淡赤橙2.5ＹＲ７／４）を帯びており、土器群の中から容易に探し出すことができる。これは、二次焼成によって変色したためで、製塩するために使用された土器（製塩土器）の胴部小片である。133は須恵器坏の口縁部、153・154は須恵器坏蓋の口縁部で、154はかえりを有している。いずれも回転ヨコナデ調整である。157は丸瓦の小片で、凸面は板ナデ調整、凹面はナデ調整で、布痕が遺存している。158は青磁椀の口縁部である。

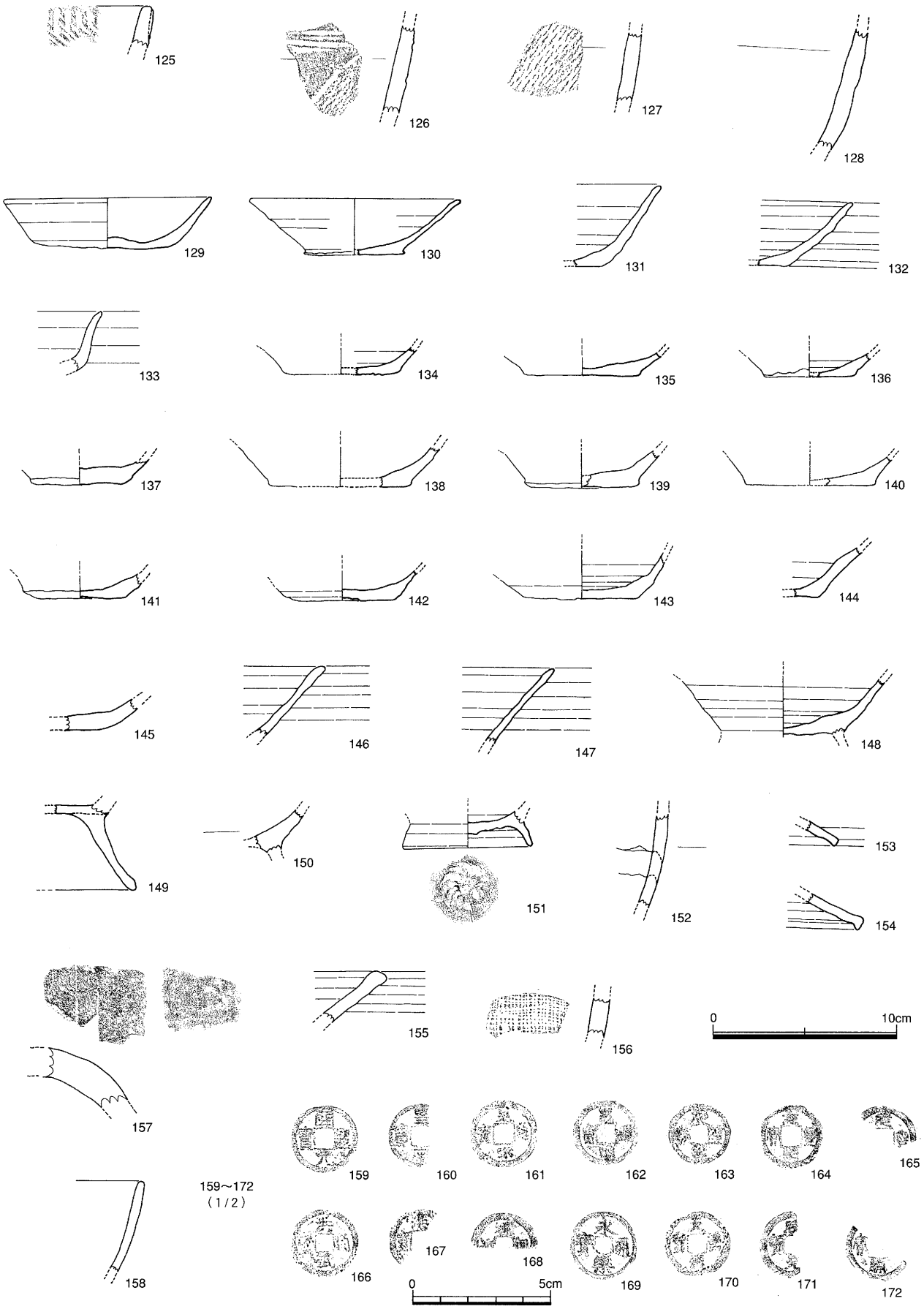


Fig.20　SB・SP出土遺物実測図（1/3）・拓本（1/2）

Tab. 2　出土遺物観察表（土器類）

試掘調査

No.	器種	残存率	法量 口径／受部径／底径／脚裾径／胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	色調 外面	色調 内面	胎土	焼成
1	土師器／坏	完形	13.9/－/5.9/－/－/4.9	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
2	土師器／坏	底部	－/－/6.3/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
3	土師器／小坏	2／3	(9.4) /－/5.2/－/－/3.3	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
4	土師器／小坏	4／5	10.5/－/5.5/－/－/2.7	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
5	土師器／小坏	完形	10.2/－/5.4/－/－/2.7	風化著しい、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 2.5YR7/8	橙色 2.5YR7/8	細かい、1～4mm前後の粒子・石英混入	〃
6	土師器／小坏	4／5	(9.8) /－/5.0/－/－/2.4	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
7	土師器／椀	2／3	14.4/－/3.8/9.6/－/6.4	風化、ヘラ切り底後ナデ／風化	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
8	土師器／椀	1／4	(13.4) /－/－/－/－/－	回転ヨコナデ、炭化物付着／風化	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
9	土師器／椀	1／2	(13.6) /－/5.0/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
10	土師器／椀	胴部～脚部	－/－/3.8/8.2/－/－	回転ヨコナデ後ナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ後ナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
11	土師器／椀	底部	－/－/4.0/7.0/－/－	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	やや不良
12	土師器／椀	〃	－/－/4.6/7.4/－/－	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	良好
13	土師器／椀	〃	－/－/4.1/7.1/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
14	土師器／椀	〃	－/－/4.4/6.6/－/－	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃

SA 1

15	土師器／坏	2／3	14.3／－/6.5/－/－/4.3	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい黄橙色 10YR 7 /2	にぶい黄橙色 10YR 7 /2	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
16	土師器／坏	2／3	(10.5) /－/5.3/－/－/2.9	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
17	土師器／坏	1／2	(9.9) /－/6.3/－/－/3.0	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
18	土師器／坏	完形	10.0/－/6.1/－/－/2.8	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～4mm前後の粒子・石英混入	〃
19	土師器／坏	4／5	10.4/－/5.3/－/－/2.6	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 5YR8/3	浅黄橙色 5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
20	土師器／坏	2／3	(9.3) /－/4.9/－/－/2.1	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
21	土師器／坏	1／3	(15.4) /－/ (7.2) /－/－/4.8	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
22	土師器／坏	2／3	(10.6) /－/6.2/－/－/2.5	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	淡橙色 5YR8/3	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
23	土師器／坏	完形	11.2/－/5.3/－/－/3.8	少し風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、2～5mm前後の粒子・石英混入	〃
24	土師器／坏	1／3	(11.4) /－/ (7.0) /－/－/2.6	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
25	土師器／坏	4／5	10.4/－/5.9/－/－/2.5	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石・金雲母混入	〃
26	土師器／坏	1／3	(11.2) /－/5.8/－/－/2.2	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
27	土師器／坏	2／3	(10.5) /－/5.5/－/－/2.6	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 2.5YR7/6	橙色 2.5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
28	土師器／坏	1／3	(13.2) /－/ (7.7) /－/－/3.4	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	やや不良
29	土師器／坏	底部	－/－/6.6/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡黄色 5Y8/3	淡黄色 5Y8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	良好
30	土師器／坏	〃	－/－/ (5.8) /－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
31	土師器／坏	底部1／2	－/－/6.2/－/－/－	風化,ヘラ切り底／風化	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
32	土師器／坏	底部2／3	－/－/5.6/－/－/－	風化,ヘラ切り底／風化	橙色 2.5YR7/8	橙色 2.5YR7/8	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
33	土師器／坏	底部	－/－/5.3/－/－/－	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底／風化、回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
34	土師器／坏	底部1／3	－/－/－/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
35	土師器／皿	4／5	14.3/－/6.3/－/－/4.3	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
36	土師器／皿	2／5	10.8/－/ (5.2) /－/－/1.5	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	淡橙色 5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
37	土師器／椀	胴部～脚部	－/－/－/8.6/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	良好
38	土師器／椀	〃	－/－/－/6.9/－/－	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
39	土師器／椀	底部	－/－/－/－/－/－	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
40	土師器／台付皿	3／5	(12.2) /－/－/6.1/－/3.0	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃

No.	器種	残存率	法量 口径／受部径／底径／脚裾径／胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	色調 外面	色調 内面	胎土	焼成
41	土師器／台付皿	3／5	(11.2) /－/－/5.8/－/2.6	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
42	須恵器／円面硯	口縁部～胴部	(11.7) /－/－/－/－/－	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	灰黄色 2.5YR6/2	灰黄色 2.5YR6/2	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	堅緻
42	須恵器／甕	胴部	－/－/－/－/－/－	叩き／ナデ	黄灰色 2.5YR6/1	黄灰色 2.5YR6/1	細かい	〃

SE 2

44	土師器／坏	底部1／3	－/－/ (8.2) /－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	良好
45	瓦器／椀	〃	－/－/－/－/－/－	回転ヨコナデ／ナデ	灰褐色 7.5YR4/2	灰褐色 7.5YR4/2	少し荒い、長石・石英混入	〃

SC 1

46	土師器／坏	底部2／3	－/－/6.9/－/－/－	風化、ヘラ切り底後ナデ／風化	橙色 5YR7/5	橙色 5YR7/5	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	堅緻
47	土師器／坏	底部	－/－/7.2/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
48	土師器／椀	底部1／2	－/－/6.8/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
49	土師器／椀	底部	－/－/－/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	淡橙色 5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
50	土師器／鉢		－/－/14.0/23.3/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	荒い、1～5mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良

SE 1

51	土師器／坏	3／5	12.3/－/5.7/－/－/4.3	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
52	土師器／坏	〃	12.5/－/6.8/－/－/4.9	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
53	土師器／坏	〃	(11.9) /－/6.0/－/－/4.7	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
54	土師器／坏	完形	12.4/－/5.1/－/－/4.5	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡黄色 5YR8/3	淡黄色 5YR8/3	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
55	土師器／坏	4／5	12.4/－/6.2/－/－/4.0	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
56	土師器／坏	1／2	(12.8) /－/6.4/－/－/4.6	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	やや不良
57	土師器／坏	2／5	(12.4) /－/6.5/－/－/4.1	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
58	土師器／坏	〃	(13.6) /－/ (6.0) /－/－/4.6	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
59	土師器／坏	3／5	(12.4) /－/6.0/－/－/4.6	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	淡橙色 5YR8/3	荒い、1～4mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
60	土師器／坏	2／5	(13.4) /－/ (5.5) /－/－/4.1	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
61	土師器／坏	1／3	(12.8) /－/6.2/－/－/4.0	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	橙色 5YR7/6	少し荒い、1～4mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
62	土師器／坏	4／5	(12.7) /－/6.5/－/－/4.2	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
63	土師器／坏	1／3	(11.4) /－/ (4.8) /－/－/3.6	風化、ヘラ切り底後ナデ／風化	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
64	土師器／坏	1／2	(12.2) /－/5.5/－/－/4.0	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	少し荒い、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
65	土師器／坏	3／5	(11.6) /－/5.8/－/－/4.1	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	橙色 5YR7/6	少し荒い、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
66	土師器／坏	4／5	(12.7) /－/6.5/－/－/4.2	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
67	土師器／坏	1／2	(11.4) /－/5.7/－/－/4.3	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
68	土師器／坏	2／5	(12.7) /－/7.0/－/－/4.2	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
69	土師器／坏	1／2	(12.0) /－/6.5/－/－/4.0	風化、ヘラ切り底／風化	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
70	土師器／坏	完形	12.8/－/6.7/－/－/4.8	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化	橙色 2.5YR7/8	橙色 2.5YR7/8	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
71	土師器／坏	4／5	12.2/－/6.0/－/－/4.9	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・金雲母混入	〃
72	土師器／坏	1／2	(12.2) /－/5.0/－/－/4.6	風化、ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
73	土師器／坏	〃	(12.2) /－/6.3/－/－/5.1	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	淡橙色 5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	良好
74	土師器／坏	完形	12.2/－/7.0/－/－/4.9	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
75	土師器／坏	底部	－/－/6.1/－/－/－	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
76	土師器／坏	1／3	－/－/5.3/－/－/－	風化、ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
77	土師器／坏	底部3／5	－/－/5.9/－/－/－	風化、ヘラ切り底後ナデ／風化	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	良好
78	土師器／坏	底部	－/－/5.8/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
79	土師器／坏	2／5	－/－/7.0/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
80	土師器／坏	底部	－/－/5.9/－/－/－	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良

No.	器種	残存率	法量 口径／受部径／底径／脚裾径／胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	色調 外面	色調 内面	胎土	焼成
81	土師器／坏	底部1／3	−/−/6.2/−/−/−	風化、ヘラ切り底後ナデ／風化	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
82	土師器／坏	底部1／2	−/−/6.5/−/−/−	風化、ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
83	土師器／坏	底部3／5	−/−/6.1/−/−/−	風化、ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/7	浅黄橙色 7.5YR8/7	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
84	土師器／坏	1／3	−/−/6.5/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	にぶい橙色 5YR7/4	少し荒い、1～5mm前後の粒子・石英混入	良好
85	土師器／坏	底部2／3	−/−/6.0/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	明褐灰色 7.5YR4/2	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
86	土師器／坏	〃	−/−/7.1/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
87	土師器／坏	底部	−/−/7.4/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
88	土師器／坏	底部1／2	−/−/7.0/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
89	土師器／坏	1／3	−/−/5.9/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	褐灰色 10YR4/1	橙色 2.5YR7/6	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
90	土師器／坏	底部2／3	−/−/6.2/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	淡橙色 5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
91	土師器／坏	3／5	−/−/5.8/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
92	土師器／坏	底部2／3	−/−/7.1/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
93	土師器／坏	底部	−/−/6.4/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
94	土師器／椀	1／2	(14.3) /−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/8	橙色 2.5YR7/6	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
95	土師器／椀	2／3	12.4/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
96	土師器／椀	1／3	−/−/5.0/9.8/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 2.5YR7/6	橙色 2.5YR7/6	少し荒い、1～4mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
97	土師器／椀	1／4	−/−/−/−/−/−	風化・ヘラ切り底後ナデ／風化	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
98	土師器／椀	脚部1／2	−/−/−/8.1/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 7.5YR7/8	浅黄橙色 7.5YR8/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
99	土師器／椀	脚部	−/−/−/7.7/−/−	風化・ヘラ切り底後ナデ／風化	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
100	土師器／椀	〃	−/−/−/7.8/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
101	土師器／椀	〃	−/−/−/7.8/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ花弁状圧痕／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
102	土師器／椀	〃	−/−/−/6.6/−/−	風化、ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	橙色 7.5YR7/8	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
103	土師器／椀	〃	−/−/−/7.6/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	荒い、1～4mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
104	土師器／椀	脚部1／2	−/−/−/7.1/−/−	風化、ヘラ切り底後ナデ／風化	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	少し荒い、1～4mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
105	土師器／椀	脚部	−/−/−/8.9/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	淡橙色 5YR8/3	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
106	土師器／椀	2／5	−/−/−/8.1/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 2.5YR7/8	淡橙色 5YR8/4	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
107	土師器／椀	脚部	−/−/−/8.0/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
108	土師器／椀	2／5	−/−/−/5.9/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
109	土師器／坏	底部	−/−/6.7/−/−/−	風化、ヘラ切り底後ナデ／風化	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 5YR8/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
110	土師器／坏	〃	−/−/7.2/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/3	淡橙色 5YR8/3	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
111	土師器／台付椀？	脚部1／3	−/−/−/11.7/−/−	風化、回転ヨコナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 2.5YR7/6	橙色 2.5YR7/6	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
112	土師器／大椀	1／2	−/−/ (7.4) /−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
113	土師器／大椀	底部	−/−/7.5/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
114	土師器／台付椀？	胴部～脚部	−/−/−/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
115	須恵器／坏蓋	1／3	12.6/−/−/−/−/2.6	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ・縦方向ナデ	灰色 N6/	灰褐色 5YR4/2	細かい、石英・長石混入	堅緻
116	須恵器／坏蓋	1／5	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ・縦方向ナデ	灰色 N6/	灰色 N6/	細かい、石英混入	〃
117	須恵器／甕	小片	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ、自然釉／回転ヨコナデ	オリーブ灰色 N6/1	灰白色 N7/	細かい、石英混入	〃
118	須恵器／椀	〃	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	灰色 N6/	灰色 N6/	細かい、石英混入	〃
119	須恵器／甕	〃	−/−/−/−/−/−	擬格子目叩き／叩き	灰白色 2.5Y7/	灰白色 2.5Y7/	細かい、石英・長石混入	〃

SB 1

145	土師器／坏	底部1／4	−/−/−/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	やや不良

SB 2

No.	器種	残存率	法量 口径／受部径／底径／脚裾径／胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	色調 外面	色調 内面	胎土	焼成
134	土師器／坏	底部1／5	−/−/（6.3）/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
149	土師器／椀	脚部1／5	−/−/−/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
150	土師器／椀	底部1／2	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	良好
156	製塩土器	小片	−/−/−/−/−/−	ナデ／布目痕	淡黄橙色 2.5YR7/4	橙色 2.5YR5/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良

SP

125	縄文土器／深鉢	口縁部	−/−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	黒褐色 7.5YR3/1	にぶい褐色 7.5YR5/3	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
126	縄文土器／深鉢	胴部	−/−/−/−/−/−	沈線、沈線内撚糸文／ナデ	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
127	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−/−	撚糸文／ナデ	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
128	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−/−	並行沈線、ナデ／ナデ	橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/4	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
129	土師器／坏	4／5	11.2/−/7.0/−/−/2.7	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	橙色 5YR8/6	橙色 5YR8/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
130	土師器／坏	1／3	（11.4）/−/（5.5）/−/−/3.1	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	細かい、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
131	土師器／坏	1／5	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
132	土師器／坏	〃	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	少し荒い、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
133	須恵器／坏	口縁部1／4	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	灰色 N5/	灰色 N6/	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	堅緻
135	土師器／坏	底部1／3	−/−/6.7/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	良好
136	土師器／坏	底部1／2	−/−/（4.9）/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
137	土師器／坏	底部	−/−/5.4/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	少し荒い、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
138	土師器／坏	底部1／3	−/−/（7.6）/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
139	土師器／坏	底部2／3	−/−/（6.2）/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
140	土師器／坏	底部1／2	−/−/（7.0）/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	淡橙色 5YR8/4	淡橙色 5YR8/4	細かい、1～2mm前後の粒子・石英混入	〃
141	土師器／坏	〃	−/−/4.9/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／風化、回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	荒い、1～3mm前後の粒子・石英混入	やや不良
142	土師器／坏	〃	−/−/5.2/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	橙色 7.5YR7/8	浅黄橙色 7.5YR7/8	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英混入	〃
143	土師器／坏	底部	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 10YR8/7	浅黄橙色 10YR8/7	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
144	土師器／坏	1／3	−/−/6.4/−/−/−	風化、回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
146	土師器／椀	口縁部1／3	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
147	土師器／椀	口縁部1／4	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃
148	土師器／椀	1／3	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
151	土師器／椀	脚部	−/−/−/（6.0）/−/−	回転ヨコナデ・ヘラ切り底後ナデ・花弁状圧痕／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	細かい、1～2mm前後の粒子・石英・長石混入	やや不良
152	土師器／甕	胴部	−/−/−/−/−/−	平行叩き／ナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	荒い、1～3mm前後の粒子・石英・金雲母混入	〃
153	須恵器／坏蓋	口縁部小片	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	灰色 7.5YR8/3	灰色 7.5YR8/3	細かい、石英混入	堅緻
154	須恵器／坏蓋	〃	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ、灰被り／回転ヨコナデ	灰色 N7/	灰色 N6/	細かい、石英・長石混入	〃
155	土師器／鉢	口縁部1／4	−/−/−/−/−/−	回転ヨコナデ／回転ヨコナデ	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	少し荒い、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	良好
156	製塩土器／鉢	胴部	−/−/−/−/−/−	ナデ／布痕	浅赤橙色 2.5YR7/4	橙色 2.5YR6/6	細かい、1～3mm前後の粒子・石英・長石混入	〃

※（　）は推定復元値

第V章　ま　と　め

各遺構の時期と相互関係について

今回対象地内からSA（竪穴住居跡）・SE（溝状遺構）・SC（土坑）・SB（掘立柱建物跡）・SP（柱穴）等が検出されている。これらを、共伴遺物や重複（切り合い）から時期と相互関係について考察する。

まず、SA１とSE１の相互関係については、SE１がまだ機能していた頃の地形を復元すると、SA１が位置しているところは傾斜地であることから、SE１及びその周辺がある程度埋まった時点で掘削されたものであると思われる。遺物を比較すると、土師器坏・椀のほとんどは変わらないが、SA１には小さな坏や皿・台付皿が含まれているのに対し、SE１にはほとんど見受けられない。また、円盤状貼付高台坏もSE１には何点か確認できるが、SA１はさらに少ない。この土器は９世紀後半頃に想定[1]されており、よって、時期的にはSE１は少なくとも９世紀後半には掘削されたもので、SA１は９世紀末～10世紀前半に比定される。

次に、SE１とSB１・SB２との相互関係については、SB１・SB２の南西部とSE１の南端部（流末）が重複（Fig.８）しているが、SE１の掘削前の状況をみると、SE１内にSB１・SB２の柱穴及びSPが確認できたことから、SE１が埋められた、あるいは埋まった後にSB１・SB２及びSPが掘削されたことは明らかである。共伴遺物として、SB１・SB２及びSPからは古くは縄文時代早期の貝殻条痕文系土器や塞ノ神式土器から中世期の陶磁器まで出土しており、さらに、幾度となく建替えが行われていることから、時期を特定するのは非常に難しいが、共伴遺物の中心はSA１やSE１と同じ土師器坏・椀が中心であり、器形も類似していることから、これら遺物が使用されていた頃よりも下る時期、10世紀後半以降のものであると判断される。一方、もうひとつの判断資料として、SP５から出土した古銭がある。この古銭は礫の下に収められていたもので、地鎮祭等の祭事に関連したものと思われる。古くは「開元通寶」（初鋳年621年）が含まれているが、「永楽通寶」（初鋳年1409年）が出土していることから、この祭事は15世紀初めに行われた可能性が高い。つまり、SB１・SB２及びSPは少なくとも15世紀頃まで、継続して建替えられた結果、このように重複した形で検出されたものと思われる。

次に、SC１とSB１・SB２及びSE2の相互関係については、SC１をSE２が切っていることから、SC１のほうがSE２よりも古く、また、SC１内にSB１・SB２の柱穴が確認できることから、SC１はSB１・SB２よりも古い遺構となる。SC１の時期については、SE１と同じ円盤状貼付高台坏等が出土しており、９世紀後半に比定される。なお、SE２は古銭が多数出土したSP５も切っていることから、このSE２は15世紀以降であることが確実である。この中での相互関係はSC１→SB１・SB２→SE２ということになる。

以上、これらを切り合い及び出土遺物の共伴関係から総合的に判断すると、SE１・SC１→SA１→SB１・SB２・SP→SE２という相互関係が成り立つ。SA２については、いずれの掲載遺物も本遺構に伴う柱穴ではなく、掘立柱建物跡のものである可能性があり、その前後関係も把握できなく、時期的に特定が難しいことから相互関係には含めなかった。

日向国府跡との関連性について

時期的にSE１とSC１は同時期のもので、９世紀後半に比定したが、県教育委員会発刊の「寺崎遺

跡[2]」によると9世紀後半はⅢb期で、溝99011（新期築地塀雨落溝）や建物98001（正殿跡）が掘立柱建物跡から礎石建物跡へと建替えられ、建物99001（東脇殿跡）が所在した時期に相当する。また、SA1と同じ10世紀前半はⅢb期の終期で、溝99011・99014、土坑99004等が当てられている。これら遺構の時期的な相対関係については、出土遺物の器形・器種等が類似していることからも判断できる。

この中で、特に注目されるのは、本遺跡検出のSE1とⅢb期の遺構との位置関係である。もちろんSE1はFig. 7でも見て取れるように、溝99011（新期築地塀雨落溝）や建物98001（正殿跡）、建物99001（東脇殿跡）等の中枢建物が所在するいわゆる「政庁」「国庁」といわれる中心部とは離れている。重要なのは前途したように位置関係である。日向国府域の東側は、現在は稚児ケ池となっているが、これは後世にため池として構築されたもので、もともとは南側同様段落ちとなっており、そして、段下は旧川道であった可能性が高い。東側は、谷が細長く北西に向かって入り込んでいるため、台地の形状としては南東に向かって舌状に延びた形となっている。対岸には法元遺跡・上妻遺跡が所在する台地となっている。この台地間には平成16年度から妻北公共下水道敷設事業に伴い実施した発掘調査[3]によって、旧川道があったことを確認しており、その旧川道から日向国府に関連した遺物が多数出土した。このふたつの旧川道は、妻北小学校の南西部で合流していたものと思われる。北側は陸続きとなっている。本対象地は、その台地の南東部に位置しているが、現在の妻北小学校の東及び南東側はかなり埋め立てられていることを確認[4]しており、そうなると、南東部というよりは南東端ということができる。

このようなことから、SE1は日向国府が所在した同時期（Ⅲ期）の遺構であり、地形的に考察すると、南東部（南東端）に掘削された区画溝ではないかと想定される。ちなみに、本対象区の北側にはS区（県教育委員会）が所在し、Ⅲ期の建物96002（掘立柱建物跡）と東側に溝が検出されているが、この溝は検出状況や位置関係から考慮してもSE1の延長とは考えにくい。図面上で復元すると延長は、S区の東側に隣接した里道付近になる。

なお、このS区で気になるのは建物96002（掘立柱建物跡）の存在である。それはSE1との相対（位置）関係で、SE1がN－19°－Eであるのに対し、建物96002はN－14°－Eと、並行関係にあった建物であったことが分かる。このSE1が日向国府の区画溝であった場合、建物96002はこのSE1の内側で、しかも、中央部付近に所在した建物ということになる。

いずれにしても、SE1は本対象地のみの検出ではあるが、日向国府に関連した区画溝であった可能性が高く、また、建物96002との関連性を考慮すると非常に注目される遺構である。

以上、日向国府に関連した遺構を検出できたことは大きな成果であり、さらに、今後進められる保存・整備を踏まえた調査研究に期待したい。

註

（1）日本中世土器研究会「薩摩国から来た食器」『中近世土器の基礎研究』X　1994

（2）宮崎県教育委員会「寺崎遺跡」『国衙跡保存整備基礎調査報告書』　2001.3

（3）西都市教育委員会「堂ヶ嶋遺跡・寺崎遺跡・法元遺跡・童子丸遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第42集　2005

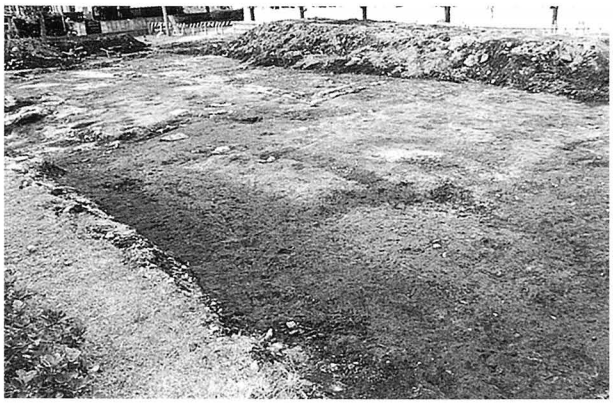
（4）西都市教育委員会の平成18年度の試掘調査で、旧妻北小学校の西側は埋め立てられていることを確認した。

1．寺崎遺跡遠景（空撮・南より）

2．調査区全景（空撮・真上より）

3．調査区南側遺構検出状況（空撮・真上より）

4．調査区南東部遺構検出状況（空撮・真上より）



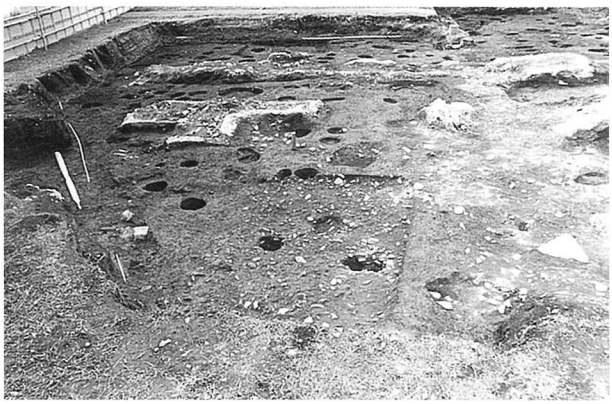
5．調査区遺構掘削前状況（南側）①

6．調査区遺構掘削前状況（南側）②

7．SA 1 遺物検出状況①

8．SA 1 遺物検出状況②

9．SA 1 遺構検出状況①

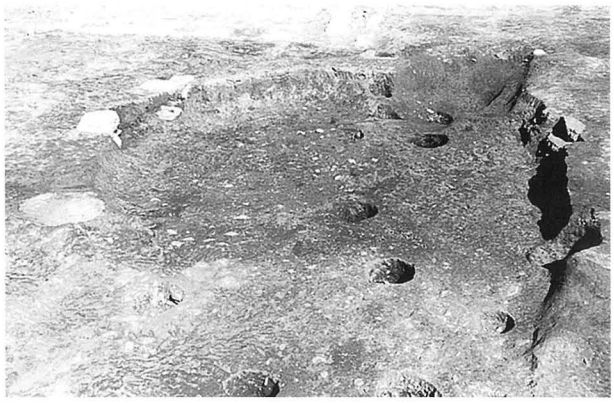


10．SA 1 遺構検出状況②

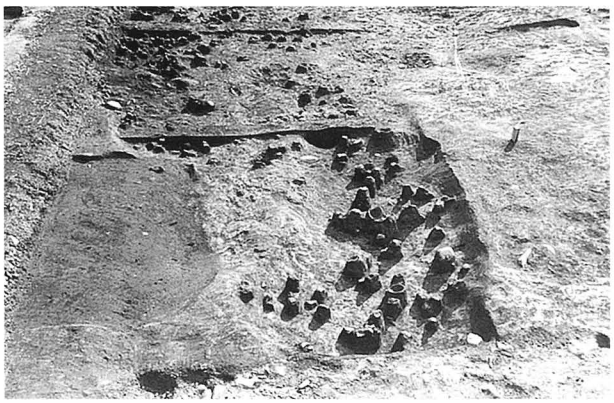
11．SA 2 遺構検出状況①

12．SA 2 遺構検出状況②

13. SC 1 遺物出土状況

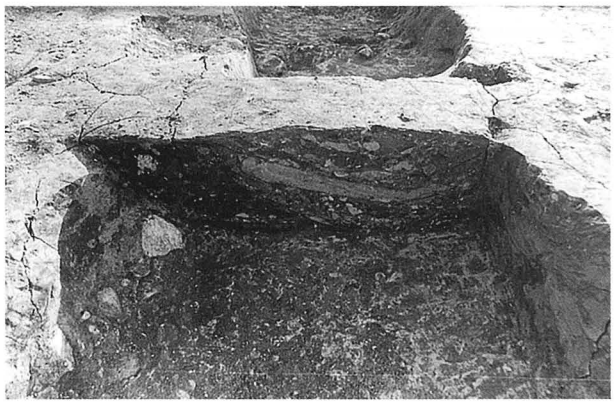


14. SC 1 遺構検出状況



15. SE 1 遺物出土状況（南側）

16. SE 1 遺構検出状況（南側）

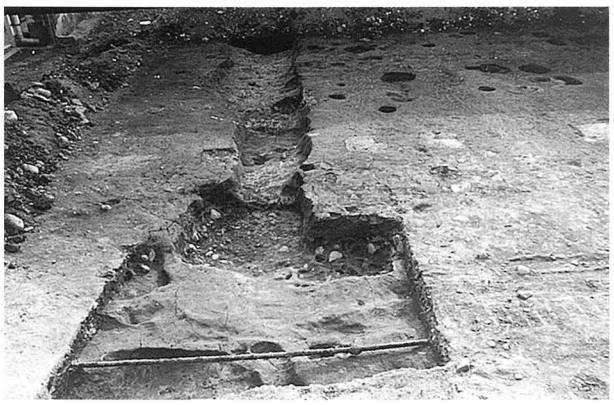


17. SE 1 土層断面（南側）

18. SE 1 遺物検出状況（北側）

19. SE内SP検出状況（北側）

20. SE 1 土層断面（北側）



21. SE 1 遺構検出状況（北側）

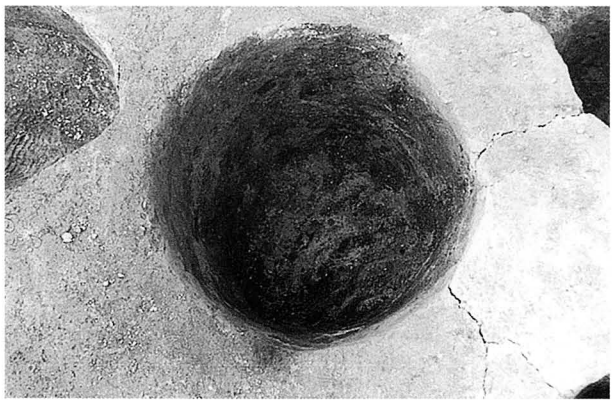
22. SE 2 ・SB 1 遺構検出状況

23. SB 1 遺構検出状況

24. SB 2 遺構検出状況

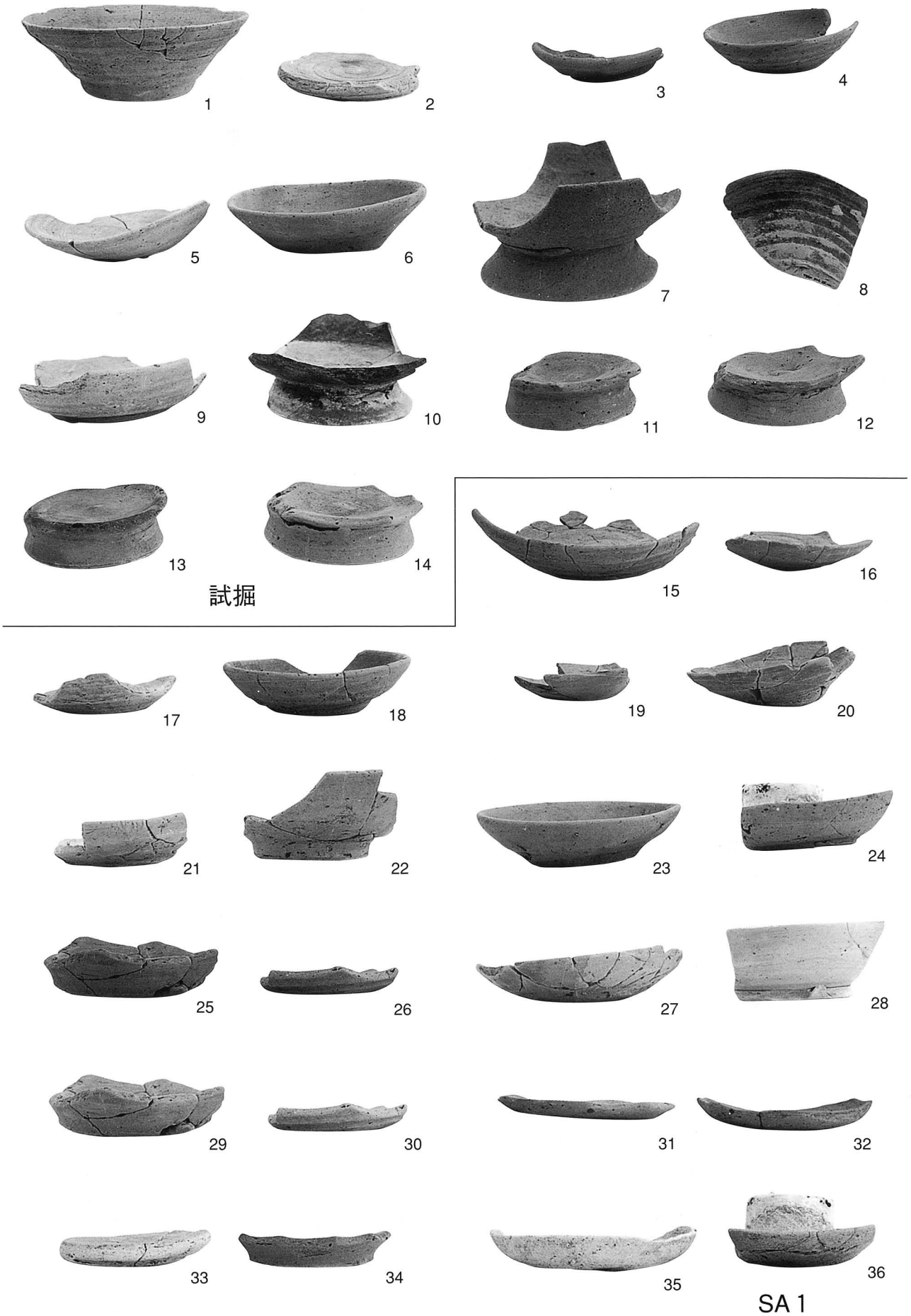
25. SP検出状況①

26. SP検出状況②



27. SP検出状況③

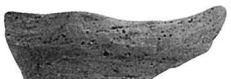
28. SP検出状況④


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
試掘
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
SA 1

37

38

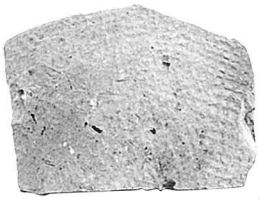
42


39

40

41

SA 1


43

SA 2

44

45

46

47

48

49

50

SC 1

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

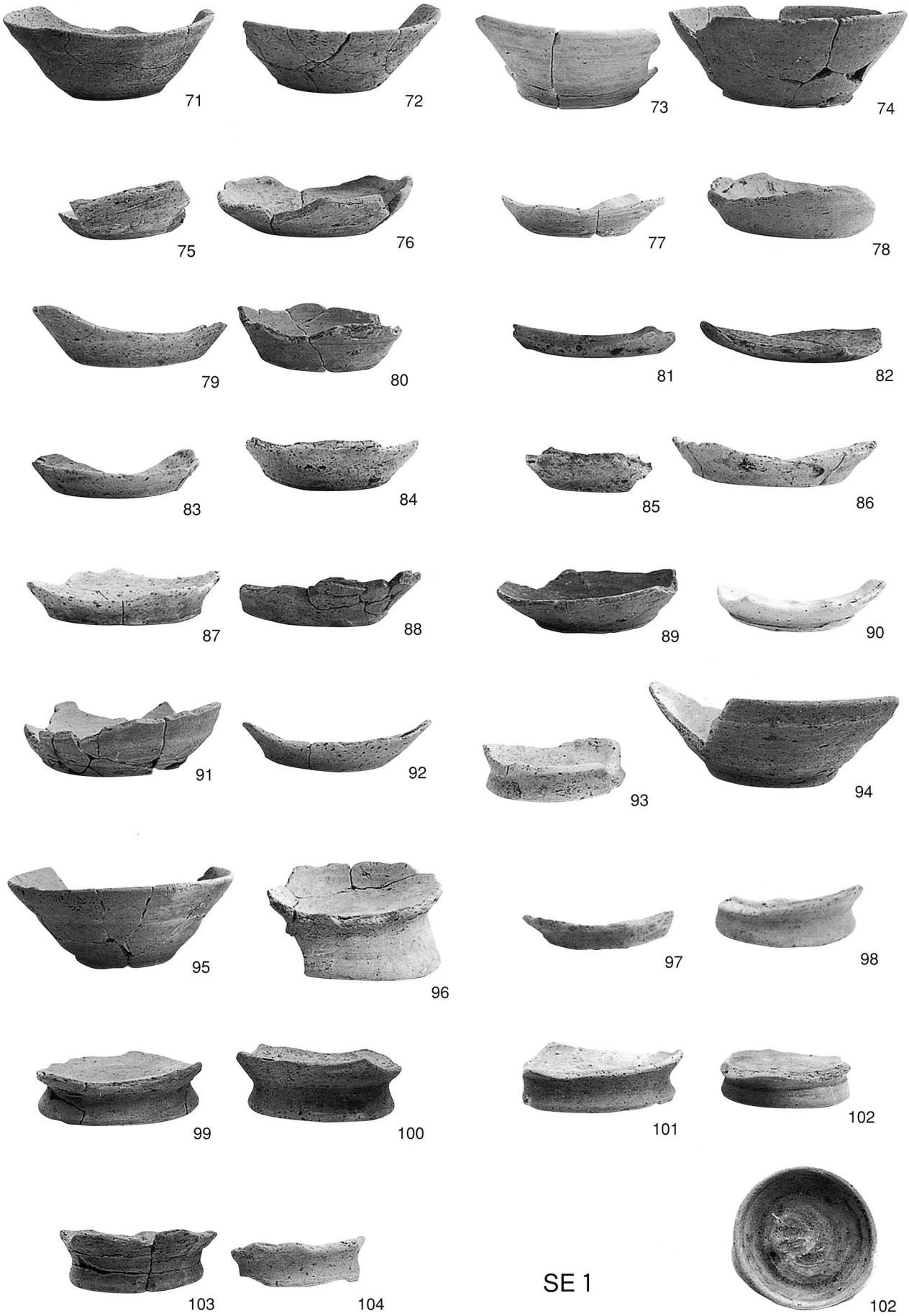
67

68

69

70

SE 1


71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
SE 1
102

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

SE 1

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

SP

135

136

137

138

139

140

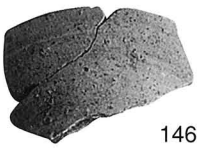
141

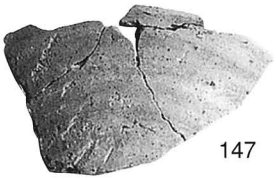
142

143

144

145


146

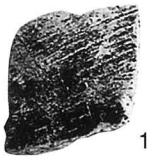

147

148

149

150

151


152

153

SP

151

154

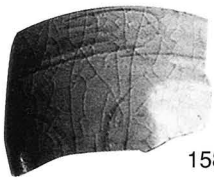
155

156

157

159

160


158

161

162

163

164

165

169

170

166

167

168

171

172

報告書抄録

ふりがな	てらさきいせき
書名	寺崎遺跡
副書名	西都市立妻北小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第１集
シリーズ名	西都市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第52集
編著者名	蓑方政幾
編集機関	西都市教育委員会
所在地	〒881-8501　宮崎県西都市聖陵町２丁目１番地　ＴＥＬ0983-43-1111
発行年月日	西暦2008年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)
てらさきいせき 寺崎遺跡	みやざきけんさいとし 宮崎県西都市 おおあざみぎまつあざはねだ 大字右松字刎田		1017	32°06′47″ ～ 32°06′49″	131°24′05″ ～ 131°24′05″	20050929 ～ 20060111	620

調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市立妻北小学校建設に伴う発掘調査	散布地	縄文 古代～中世	柱穴群・溝状遺構・掘立柱建物跡・土坑・竪穴住居跡	縄文土器 土師器・須恵器 陶磁器・古瓦・古銭 土錘	

『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第52集
「寺崎遺跡」
平成20年 3 月31日発行
編集発行　西都市教育委員会
印 刷 所　㈲河野印刷所